

令和2年度 日南町・鳥取大学 連携事業報告書



鳥取大学・日南町
連携事業ワーキンググループ会議

令和3年3月

【目次】

鳥取大学理事あいさつ	1
日南町長あいさつ	2
鳥取大学・日南町連携事業ワーキンググループ座長あいさつ	3
令和2年度鳥取大学・日南町連携事業報告	4
1. 日南町をフィールドとして行う地域学習	
I. とっとり暮らし早期体験学習	5
鳥取大学地域価値創造研究教育機構 教授 清水 克彦	
II. 地方創生政策体験学習	11
鳥取大学工学部 助教 長曾我部 まどか	
2. 日南町の環境資源調査・報告	15
I. 日通共生の森10周年記念事業　－共生の森WEB生態系図鑑－	
鳥取大学大学院連合農学研究科・生態工学研究室 高木 康平	
II. エコツーリズム振興のための福万来におけるゲンジボタルの生態調査	23
鳥取大学農学部 生体工学研究室 葉狩 怜也	
3. 中山間地域における課題解決及びSDGs推進に関する連携協定	43
日南町ショートタイムワーク	
ソフトバンク株式会社 CSR部長 高際 均	
鳥取大学農学部 講師 木原 奈穂子	
令和2年度鳥取大学・日南町連携事業実績報告	55
【教育・文化】	
1. (中止) にちなんふる里まつりに連携する出前科学実験教室の開催	55
(鳥取大学技術部化学 総括技術長 三谷 秀明 / 教育委員会との連携)	
2. 国際理解講座「留学生と遊ぼう」	55
(国際交流センター 准教授 御館 久里恵 / 日南町図書館との連携)	
3. とっとり暮らし早期体験学習	56
(地域価値創造研究教育機構 教授 清水 克彦 企画課 中嶋主事)	
4. 地方創生政策体験学習	56
(工学部助教 長曾我部まどか/企画課 中嶋主事)	
5. 鳥取大学・日南町連携講座として「にちなん町民大学」を開催	57
(鳥取大学教員/教育委員会)	
【産業・環境】	
6. 日南町福万来におけるゲンジボタル生息水域の評価	58
(鳥取大学(日置研究室) とにちなんエコツーリズム推進協議会との共同研究)	
7. 日通共生の森10周年記念事業	59
(農学部/農林課・企画課)	
【3者協定に基づく連携事業】	
8. 中山間地域の課題解決に関する連携協定	61
(鳥取大学 / 日南町 / ソフトバンク株式会社)	
①小学生の居場所確保と学びに対する意識向上	
②成長記録を町民と行政で共有しながら進める子育て支援	
③日南町ショートタイムワーク	
④保育、介護分野におけるICT化	
令和2年度までの主な経緯	65

ごあいさつ

3月1日に開催された連携事業報告会では、リモートとみ合わせて新しい形で地域の皆様と成果の報告を共有することができました。ご参加いただいた方、報告会の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

日南町と鳥取大学は10数年も前から目指すところが持続可能な地域、いわゆるSDGSな地域に向けて、たゆみない歩みを続けてきました。日南町は少子高齢化社会の30年先をいく町として、この連携協定で行うあらゆる事業が他の町のモデルになると思います。今だからこそ魅力を外に発信するチャンスであると思いますし、その証がSDGS未来都市の認定でもあります。



鳥取大学理事
(地域連携担当)・
副学長
藪田 千登世

報告内容にもあります、「とっとり暮らし早期体験学習」「地方創生政策体験学習」では、地方行政に学生が参加させていただき、実際に町も成果を活用していただいているというのは全国的に見ても画期的な取り組みであります。

また、20世紀というのはコンクリートと鉄の文化と言われてきたわけですが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人と人がつながる温もりのようなものが再認識され、人間にとって自然や木や動植物そういった人にやさしいものへ心や生活のベクトルが向いてきている時代になってきていると思います。そうした中で行われた、「共生の森10周年記念事業」や「福万来のゲンジボタル生態調査事業」は自然豊かで20世紀を先取りしている日南町がフィールドだからこそ取り組める先進事例ですし、持続可能な地域をどうつくっていくのか、どう守っていくのかを示している一つの解だと思います。

マスメディアも注目しておりますが、今年度に締結した「中山間地域の課題解決及びSDGs推進に関する連携協定」の取り組みでは、ITを活用し本当に必要なものを施策として住民福祉へ還元していく取り組みは、具体的な成果が出れば、すべての自治体、産業のモデルとなるのではないのでしょうか。

これらの事業は日南町と鳥取大学の長年の連携の積み重ねの上に立っており、こうした積み重ねがあってこそ未来へ向けた次なるステップボードとなると確信しております。

ぜひ地域の皆さんにこうした事業のことを広く知っていただき、産官学の知恵と人材を活かしながら、他の模範となる地域へ向けて共に歩みを進めていきたいと思っております。

令和3年3月

ごあいさつ

鳥取大学と本町との連携事業も15年目を迎えました。

今年度も日南町をフィールドに様々な事業を展開していただき、座長の日置先生を始めとした関係者の皆様には大変お世話になりました。お礼申し上げます。



日南町長
中村 英明

今年度は新型コロナウイルスの影響により、町内はもちろん、大学もオンライン授業等で様々な苦労をされたのではないかと思います。

苦しい1年でもありましたが、ワクチン開発も進み、接種の目途も立ち始めましたので、新型コロナウイルス感染症の影響が少しずつ弱まっていくことを期待したいと思います。

コロナの影響からか、東京一極集中が緩和傾向となり、地方である日南町の価値を再定義する時が来たと感じます。地方である強みを活かし、今後も色々な取り組みを行っていききたいと思います。

8月21日に締結した「中山間地域の課題解決及びSDGs推進に関する連携協定」では、鳥取大学と日南町の中に、ソフトバンク株式会社も加わりました。ソフトバンクの持つITのノウハウを利活用し、日南町のICT化を推進し、課題を解消していききたいと思います。

日本の30年後の姿である日南町ですが、これからも「持続可能なまちづくり」を行っていきます。関係者の皆さんには、引き続きお力添えをいただければと思っております。

最後に、本日に至るまで本庁と鳥取大学との連携事業に関わり、ご支援、ご協力いただきましたすべての皆さんに改めてお礼申し上げます。

令和3年3月

ごあいさつ

3月1日に開催した「令和2年度 鳥取大学・日南町連携事業報告会」は、大勢の方にご参加いただきました。心より感謝申し上げます。

日南町と鳥取大学の連携事業は、平成18年以来長きにわたって、持続可能な地域づくりを目的とし、様々な事業に取り組んでまいりました。

今年度は、交流人口の拡大や生物多様性の保全、エコツーリズムの振興等の持続可能な地域づくりに向けた様々な取り組みを行ってきました。

特に、新しくソフトバンク株式会社も加わったため、SDGs 推進に向けた取り組みがさらに加速しているところです。

皆さんもご承知のとおり、地球環境問題並びに、昨今では新型コロナウイルス感染症拡大に伴う諸問題も生じ、これらすべてに対処しながら地域づくりを行っていく、より困難な時代に直面しておりますが、日南町との意欲的な取り組みを実施することで、より大変な時代を乗り越え、持続可能な社会をつくっていくことが、この連携事業の目指しているところです。

今年度は、過疎・過密の価値が大きく変わった年でした。従来、過疎はマイナスのイメージが強く、良くないことと考えられていましたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、過密は悪いこと、過疎はかえって良いことと考えられるようになりました。社会全体としてのコロナは悪いことばかりですが、日南町は都会と比べ比較的克服しやすい社会環境でありますので、コロナの影響を回避しながら施策を進めていくことが必要だと思えます。

まさに『禍を転じて福と為す。』そういった姿勢で、コロナ後の社会も考えながら今後も取り組んでいけたらと思えます。



鳥取大学・日南町連携事業
ワーキンググループ会議
座長
日置佳之

令和3年3月

令和2年度 鳥取大学-日南町連携事業報告会

日 時：令和3年3月1日（月）15：00～16：40

会 場：日南町役場 交流ホール

1. 日南町をフィールドとして行う地域学習

I. とっとり暮らし早期体験学習

鳥取県内の日南町、大山町、琴浦町、南部町、智頭町、八頭町の6町をフィールドとして、実際に現地に赴き視察を実施し、大学入学後早い時期に地域の实情に接することにより、各町の特色ある自然や産業についての教養を身につけるとともに、地域を学ぶ動機付けを行うことを目標とした講義。今年度はにちなん中国山地林業アカデミーで実施した内容の報告を実施。

（報告者）地域価値創造研究教育機構 教授 清水 克彦

II. 地方創生政策体験学習

日南町において2017年から実施している「地方創生政策体験学習」の取り組みについて紹介します。この授業では、県内自治体の地方創生事業について、鳥大生が必要・有効性・効率性・公平性の観点から事業レビューを行います。受講生は夏休みの数日間、各自治体に滞在し、自治体職員や事業者、住民に対し事業に関するヒアリングを行います。今回は、「移住・定住政策事業」を取り上げ、学生目線の事業レビューの結果報告や体験学習の感想をご紹介します。

（報告者）工学部 助教 長曾我部 まどか

2. 日南町の環境資源調査・報告

I. 日通共生の森10周年記念事業 ー共生の森WEB生態系図鑑ー

平成21年度より実施している共生の森活動が令和元年度で10周年を迎えた。それに伴い、昨年度から「日通共生の森WEB生態系図鑑」の作成を開始した。令和2年12月24日にWEB図鑑のデータ、パンフレットが完成したため、図鑑の一部を紹介した。

（報告者）鳥取大学大学院連合農学研究科・生態工学研究室 高木 康平

II. エコツーリズム振興のための福万来におけるゲンジボタルの生態調査

本町の希少生物であるゲンジボタルの保護と観光利用生息水域の調査を実施したため、調査結果の報告を行った。

（報告者）鳥取大学農学部 生態工学研究室 葉狩 怜也

3. 中山間地域における課題解決及びSDGs推進に関する連携協定

～日南町ショートタイムワーク～

今年度新たに締結した、日南町・鳥取大学・ソフトバンク3者が協働で日南町の持つ課題の解決を行う連携協定である。①小学生の居場所確保と学びに対する意識向上、②成長記録を町民と行政で共有しながら進める子育て支援、③日南町ショートタイムワーク、④保育、介護分野におけるICT化の4つのプロジェクトを立ち上げそれぞれ進捗していくもの。

今回の報告会では、③日南町ショートタイムワークの取組みについて進捗の報告を実施

（報告者）ソフトバンク株式会社 CSR部長 高際 均
鳥取大学 農学部 講師 木原 奈穂子

鳥取大学 地域創生推進プログラム プロジェクト科目
とっとり暮らし早期体験学習



鳥取大学 地域価値創造研究教育推進機構 清水克彦

R3.3.1 令和2年度日南町・鳥取大学連携事業報告会

地域創生推進プログラムについて

目的

地域社会に対する高く幅広い関心を持ち、そこにある様々な課題に立ち向かっていくための知識、デザイン力、実践力を養う

特典

定められた科目の単位を取得し、修了が認定されると修了認定証を授与

地域志向科目

キャリア科目

起業・ビジネス科目

インターンシップ

プロジェクト科目

学部専門科目

とっとり暮らし早期体験学習とは

目的

日南町、大山町、琴浦町、南部町、智頭町、八頭町を訪問し、各町の特色ある自然や産業についての教養を身につけるとともに、地域を学ぶ動機付けを行う。

とっとり暮らし早期体験学習の構成

事前学習

各町の職員を講師として、町の特徴、町固有の課題や我が国の地方自治体に共通する課題といった基礎的な事項について学習

体験学習

実際に現地を訪問し、それぞれの町の風土を体感し人々と交流

振り返り

その後、実際に現場で体感した課題についてグループを通して問題意識を共有し、最終的に報告会で改善案を発表

とっとり暮らし早期体験学習の内容

これまでの日南町での体験

農業体験（H27-29）：日南米田植え

特産品販売促進体験（H30）：めしフェス参加

林業体験（R1-2）：にちなん中国山地林業アカデミー
1日体験入学

今年度参加学生

16名ー1年：15名、2年：1名

地域・医・農・工学部、全員県外

事前学習@鳥取大学CDL



鳥取暮らし早期体験学習日南町調べ
地域学習地域学科地域創造コース 岸田節編

今回は日南町訪問ということで、日南町の主要な観光地についてまとめていこうと思う。

1. 霞沢ダム



日野川の支流に設けられた鳥取最大の多目的ダム。ダム湖側の道路が太子寺・南宮町と日南町を繋ぐ幹線のアクセスルートになっており、利用する人が多いといわれている。ここにはワインディングロードが広がっており、非難から湖周や存の塚、秋の紅葉などを楽しむことができるという。

2. 日野野上小学校の大観音



現在は農地となっていた日野野上小学校の校庭のど真ん中に、樹齢が100年を超える大観音が立っている。紅葉の時期はとても美しいというから、夜間にはライトアップも行われているそう。

3. 福成神社



社殿から境内をみると大田主の命が2度復活した地と言われる大倉山が正面にあり、「美しい庭と福と成す」と成功祈願の参拝者が多いという。階段を登ると2本の石柱と参道を通り勝神門、鳥居、本殿と続き、本殿上部には豊の形像があるという。

このように、日南町は自然や歴史がある町のように思えた。しかしながら、地元で人気だったというスキー場が今年で閉鎖するというなど、調べていく中で、少し寂しい記事も目にした。これから観光協会の人のお話や、実際の訪問を通して、日南町の魅力や課題などたくさんの方に伝えていきたいと思う。

【日南町訪問】レポート 日南町、にもな山中国山地林業アカデミーの取り組み、および観光の現状と課題について知る。

質問内容 (7/20までに提出)	回答内容 (協会、日南町ではアソビの調査者の回答を基に)	感想 (5/15まで)
1. 観光客の来客数について		
2. 観光客の来客数について		
3. 観光客の来客数について		
4.		
5.		

※回答(質問)の回答欄に併せてください



体験学習@日南町にちなん中国山地林業アカデミー (8/2)



体験学習 @日南町



活動報告@鳥取大学CDL

日南町 現地活動

- 日南林業アカデミーでの講義
- 実際に山に入っての森林伐採体験
- 日南町役場の見学
- 道の駅の見学



11

日南町 分析

強み (Strength)	弱み (Weakness)
<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源 ・国際認証 ・質の高い林業教育 ・木材団地 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化 ・人材の不足 ・交通の便の悪さ ・
機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
<ul style="list-style-type: none"> ・CO2の削減 ・人材の育成 ・国産材の増加 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働による災害 ・外国木材の輸入 ・

日南町 提案

- 日南町で育成された林業従事者の全国への派遣
- 林業と絡めた若者向けのイベントの開催
- 女性を対象とした林業の宣伝
- 質の高い林業アカデミーの宣伝
- 国際認証をもらった木材の宣伝
- 森や木を使ったアスレチックなどの施設の制作



日南町をフィールドとして行う地域学習

鳥大生による 日南町の事業レビュー ～地方創生政策体験学習～

鳥取大学 工学部 長曾我部まどか

地方創生政策体験学習とは

1. 夏休みの集中講義

- 事前学習 地方創生・政策評価
- 体験学習 フィールドワーク
- 事後学習 振り返り

2. 実際に自治体に行って、地方創生に関する事業を学ぶ

3. 模擬事業仕分けと発表会を行う



日南町での取り組み

2017年 にちなん観光ガイドブック事業

2018年 旧木下家の活用事業

★ 観光の産業化

2019年 多里地域のまちづくり

★ 安心して暮らし続けられるまちづくり



2021年の実施内容

- ★ 日南町へ移住してもらうための取り組み
- ★ 青年結婚・UIターン促進事業
 - いきいき定住促進条例
 - 空き家バンク制度
- ★ 地域学部2年生、女子学生2名が参加
- ★ 旧木下家に滞在

体験学習の内容

8月26日	政策学習:町の概要や移住定住の政策を学ぶ
8月31日	日南町内を視察:町内の交通網やスーパーマーケット、病院等施設の立地状況を知る
9月 1日	聞き取り調査:制度利用者への聞き取り・住宅の見学
9月 2日	聞き取り調査:制度利用者への聞き取り・住宅の見学、学習内容の整理、町長と面会
9月 3日	役場で成果発表:体験学習で分析した問題点、改善案をまとめた内容を発表

学生からの提案

奨励金診断テスト

1. 移住者の情報(年齢、世帯数、住居など)を入力
2. 情報に該当する奨励金、または今後受け取れる可能性のある奨励金を表示

- ★ 移住者: 気軽に奨励金を調べることができる
- ★ 役場: 移住者の情報を収集・分析できる

学生の感想

- ★ 行政的な視点(公平性、必要性、予算面)の全てを十分に満たす政策を作ることは難しい
- ★ 日南町で出会った多くの人々
 - 日南町の方々の温かさ
 - 移住に対する意見の違い
- ★ 美しい日南町では未知の新しい生活を叶えることができる

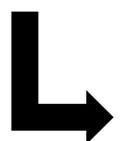


日通共生の森 10周年記念 図鑑作成事業 -実績報告-



➤ 背景・目的・成果品

平成21年10月
日本通運、鳥取県、日南町により
鳥取共生の森制度に基づき
森林保全・管理協定を締結

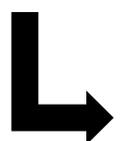


令和元年
協定締結10周年



写真: 10周年記念式典の様子

記念事業: 活動地の動植物図鑑の作成



成果品
web図鑑
パンフレット



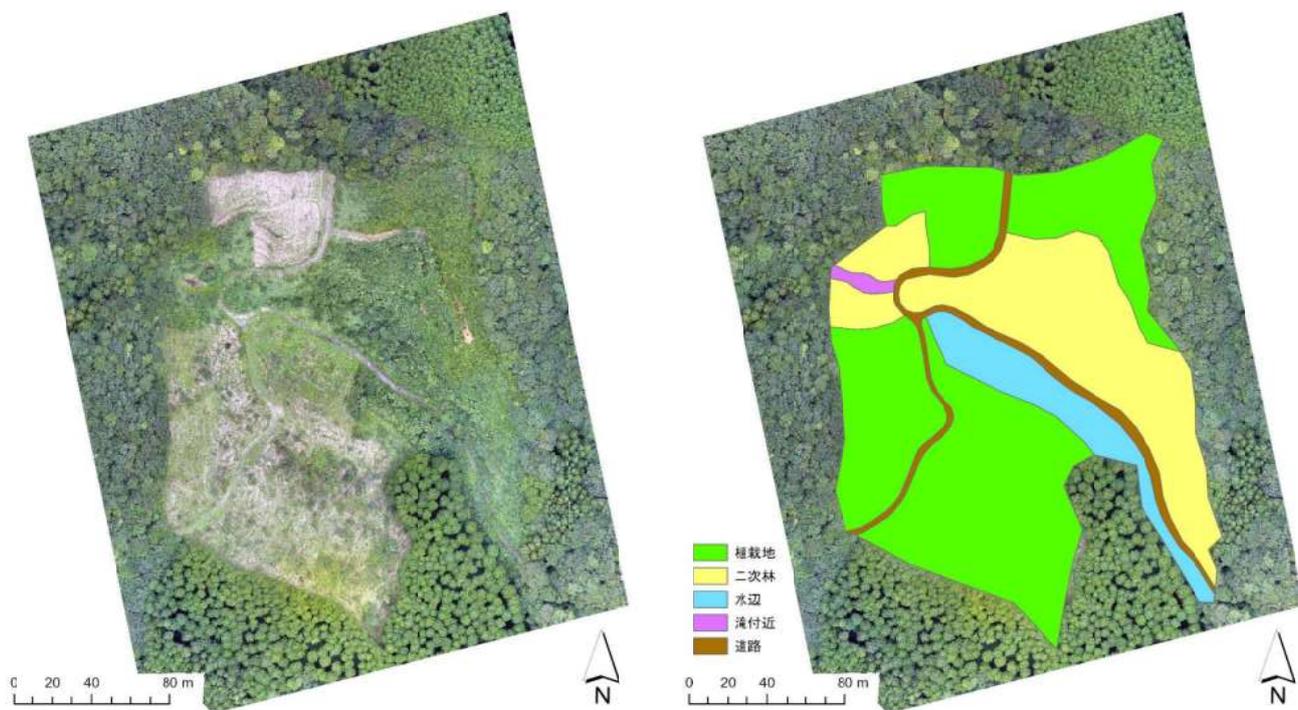
写真: 草刈り作業



写真: 植栽作業

➤ 調査範囲と生育・生息地の区分

図鑑作成地：日南町神戸上字松ヶ峠 日通共生の森地内 約3.5ha
出現した植物の生育地は図面の様に分類し、図鑑にも反映した。



➤ 調査内容

植物相調査

期間：2019年7月～2020年7月
月1回の頻度で出現種の調査



写真：植物の確認と
写真撮影



写真：自動撮影カメラ

動物相調査

(1) 捕獲調査

期間：2019年8月～2020年7月
月1回の頻度で捕虫網等で捕獲

(2) 鳥類調査

期間：2019年10月、12月、2020年6月
双眼鏡及び鳴き声で出現種を確認

(3) 自動撮影カメラ

期間：2019年12月～2020年3月、2020年7月～8月
カメラの前を通過した動物の、静止画と動画を撮影



写真：捕獲調査

➤ 結果 出現種数

	種数	希少種	外来種
被子植物	214	8	18
裸子植物	3	0	0
シダ植物	7	0	0
合計	224	8	18

	種数	希少種	外来種
節足動物	97	9	0
水生生物	3	0	0
両生類	7	0	0
爬虫類	3	0	0
鳥類	15	0	1
哺乳類	8	0	1
合計	133	9	2

※希少種の定義: 環境省又は中国地方5県のいずれかのレッドデータブックに記載されている種

主な希少種

植物 ツチアケビ、カラスノゴマ、ミゾホオズキ

動物 オナガアゲハ、オオヒカゲ、アサヒナカワトンボ

➤ 成果品 パンフレット



➤ 成果品 パンフレット

協定10周年記念事業 web図鑑の作成

ウグイス エナガ

平成21年10月に日本通連、鳥取県、日南町の3者で締結した森林保全・管理協定が、令和元年に10周年を迎えました。

10周年の記念事業として、平成24年より主な活動地として日通に管理をして頂いた松ヶ峠の山林において、動植物の図鑑を鳥取大学と共に作成することにしました。

10年間の森林の保全・管理活動が、多くの動植物を守ることに繋がりました。その成果を残すことを目的として、図鑑を作成しました。このパンフレットは、ごく一部の生き物のみの紹介となりますので、是非ともweb図鑑もご覧ください。

アオゲラ

日通共生の森の動植物



日通共生の森の松ヶ峠にて、2019年7月20日～2020年8月31日にかけて、植物相(対象: 維管束植物)と動物相(対象: 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、水生生物)の調査を行いました。

植物相は222種を確認し、希少種(環境省もしくは中国地方5県のレッドデータブックに記載されている種)が8種確認されました。春にはスミレ類、ヤマザクラ、キブシなどが咲き、夏は近づくやマツツジやガマズミ類が良く目立ちます。夏にはササユリ、ナルコユリ、オカトラノオといった大きく目立つ花が咲きます。滝の周辺ではエンジサイが多く咲き、希少種であるミゾオツキも見ることができます。秋には花の種類が減りますが、ヤマハギやキンミズヒキが目立ち、リンドウや希少種であるホクチアザミも見ることができます。一方、外来種は17種で、ヒメジョオンやペニバナボロギクなどのキク科外来種が多く確認されました。

動物相は135種を確認し、希少種が9種確認されました。

哺乳類は、四季を通してニホンジカやニホンイノシシなどの大型動物、ホンドタヌキ、アカギツネ、ホンドテンなど中型動物が確認されました。草地ではカヤネズミの巣やニホンウサギの痕跡が確認されました。



自動撮影カメラに映ったニホンジカ

鳥類は、1年中、草地や水辺、森林に住む鳥の鳴き声が聞こえてきます。春にはウグイスのさえずりやキツツキ類のドラミングが谷にこだまし、ヤマカラやエナガなど小鳥たちが植栽木のまわりを飛びまわります。

両生類と爬虫類は、春～秋にかけて、山地に生息するタゴガエルや日本固有種のアオダイショウ、水田や水辺に住むヌマガエル、ニホンアマガエルを見ることができます。

昆虫類は、春～夏が最もにぎやかです。草地では、キムネクマバチ、サキグルムシヒキ、オオカマキリのほか、オンパバッタなどバッタの仲間、ベニシジミなどチョウの仲間が確認されました。水辺の近くでは、糸トビの仲間であるアサヒナカワトンボや、オオオバボタルも確認されました。この他にも、山地や広葉樹林に住むコギリカミキリ、トラマルハナバチ、オナガアゲハなど、多様な昆虫が住んでいました。

外来種は少なく、哺乳類ではヌートリア、鳥類ではソウシチョウが確認されました。

このように、日通共生の森では多種多様な動植物が確認できました。これは、区域内に毎年草を刈る植栽地、自然に身を任せる二次林、滝から連なる水辺といった、様々な環境が存在しているためと考えられます。近年では、里山を代表とした、「人が手をかけて管理してきた広葉樹林」はほとんど見られなくなりました。日通共生の森では、適度に森に人手を加える活動により、様々な動植物を育むことができる環境が維持されています。



植栽木 ヤマボウシ 順調に生育し、6月には花も楽しめます

これまでの活動

2019 (R1) 第二十一回 共生の森事業 十周年記念行事	2018 (H30) 第十八回 共生の森事業 西日本豪雨により中止	2016 (H28) 第十五回 共生の森事業 鳥取中部地震により中止	2014 (H26) 第十回 共生の森事業 日通本社食堂にて、日南町産米の利用開始	2012 (H24) 第六回 共生の森事業より 松ヶ峠で活動開始	2009 (H21) 管理協定の締結 大入組と桑平山を協定地として活動を開始 第一回 共生の森事業
-----------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	--	-------------------------------------	--

日南町での交流

夏には植栽地の下刈りを実施

松ヶ峠での初めての活動

第1回活動 この頃は人工林の管理も実施

➤ 成果品 web図鑑

キジカクシ目 ラン科

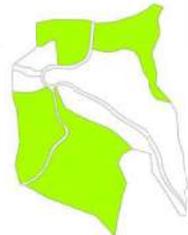
ツチアケビ

ツチアケビ属

Galeola septentrionalis

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

岡山県 NT



植栽地
二次林
水辺
滝付近
道路

【別名】

ヤマノカミノシャクジョウ

【名の由来】

果実の色や形がつる性木本のアケビに似ていることからきている。

【生息環境】

山地の林内や笹藪などに生える。

【形態】

葉緑素をもたない腐生植物。茎は太く、全体が黄褐色を帯び、高さ0.5～1m、多数分枝する。葉は退化し、鱗片状。上部の各枝に黄褐色の花を総状につける。花柄子房は長さ3～6cm。花は長さ3cmほど。萼片外面に褐色の微毛が密生する。唇弁は黄色で、内面に毛状突起がある。果実は紅色で長さ6～10cmのパナナ状で、肉質、下垂する。

【分布】

北海道～九州



(2020.6.10)



(2020.8.31)

➤ 成果品 web図鑑

マメ目 マメ科

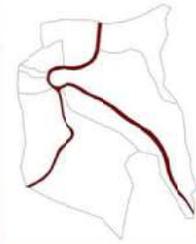
シロツメクサ

シャジクソウ属

Trifolium repens

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

外来種



植栽地
二次林
水 辺
滝付近
道 路

【生息環境】

道端や荒地などいたるところに生える

【形態】

茎は地を這って長く伸びる。葉は3小葉、ときに4小葉からなり、葉柄は長さ5～15cmと長い。小葉は長さ1～2.5cm、幅0.8～1.8cmの広倒卵形で、表面に斑紋があるものが多い。長さ約1cmの白い花が多数集まって球状の花序をつくる。花には短い柄があり、受粉すると外から順に垂れる。豆果は花の後にも残る花弁と萼に包まれている。

【原産地】

ヨーロッパ

【渡来】

牧草として渡来し全国で野生化している。



(2020.5.29)



(2019.5.29)

➤ 成果品 web図鑑

ツツジ目 ツツジ科

アセビ

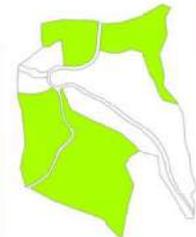
アセビ属

Pieris japonica

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

危険

日本固有種



植栽地
二次林
水 辺
滝付近
道 路

【生息環境】

日当たりのよい所

【形態】

常緑低木～小高木で高さは1～8mで、直径5～10cmになる。樹皮は灰褐色。縦に裂け目が入り、少しねじれる。若い枝は緑色で、稜がある。はじめ短毛が密生するが、後に無毛になる。葉は互生。枝先に集まってつく。葉身は長さ3～10cm、幅1～2cmの倒披針形または長楕円形。先端は鋭くとがり、基部はしだいに細くなる。ふちの上半部には浅い鋸歯があり、少し波打つ。革質で、表面は光沢のある濃い緑色、裏面は淡緑色。表面の主脈上に短毛があるほかは無毛。葉柄は長さ3～8mm。枝先の葉腋から長さ10～15cmの円錐花序をだし、白色の花を多数つける。

【毒性】

葉、樹皮、花は毒を含み、誤食すると神経麻痺や呼吸困難を起こして死亡することもある。

【分布】

山形・宮城県以南～九州山地



(2019.8.22)



(2020.4.7)

➤ 成果品 web図鑑

チョウ目

オナガアゲハ

アゲハチョウ科

Papilio macilentus

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

島根県 NT

【生息環境】

丘陵～山地で、よく見られる。

【形態】

体長は、85～100mmで、ほぼ黒一色の体色である。後翅後角などに円形の赤色紋がある。細長い尾状突起があり、後翅の幅が狭まる。腹は黒く、クロアゲハに酷似するが、前後翅が細長く尾状突起は長めである。本種は、山地性のため街中で見かけることは稀。春型は夏型より小形で、模様には違いがあり、メスには白い紋がない。

【分布or原産地】

北海道、本州、四国、九州。

【生態】

幼虫はイモムシ型で、怒ると黄色ないし肉角を頭上から出し、独特のニオイを出す。さなぎは糸のバンドで体を固定する。花を見つけると近づき、花から花へ飛び移りながら蜜を吸う。



(2020.5.29)



(2020.5.29)

➤ 成果品 web図鑑

チョウ目

タケカレハ

カレハガ科

Psychostrophia melanargia

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

危険

日本固有種

【生息環境】

平地～山地。

【形態】

成虫：前翅に大きく明瞭な白色紋が2つ。
幼虫：背部の茶褐色と側面の淡黄色がコントラストをなす。毒刺毛がある。頭部は茶褐色。中胸、第8腹節背部に暗褐色の毛束。

【生態】

食草はタケ類、ササ類、ススキ、ヨシなど。特にススキなどイネ科植物に生息する明るい色彩のカレハガ。

【危険性及び対処法】

幼虫やマユに接触すると激しい痛みを感じ、潮紅、浮腫を起し、2～3週間程度激しい痒みが続く。毒針毛は皮膚に残ることが多いので、触ってはいけない。粘着テープで毒針毛を取り、水でよく洗う。ヒスタミンは含まないため、ステロイド軟膏を塗布する。

【分布】

北海道・本州・四国・九州に分布。



(2020.6.10)



(2020.6.10)

➤ 成果品 web図鑑

キツツキ目 キツツキ科

アオゲラ

アオゲラ属

Picus awokera

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

日本固有種

【生息環境】

雑木林、森林

【形態】

全長：29cm

上嘴は黒く、下嘴は黄色。顔からくびは灰色、体の下面は淡緑灰色で腹部には黒横斑がある。体の上面は黄緑色で腰は黄色みが強い。初列風切は黒褐色で白い横斑がある。雄では額から後頭にかけてと顎線が赤く、雌では後頭と顎線が赤い。

【分布】

九州～本州

【鳴き声】

「キョッ、キョッ」と鳴く。飛びながら「ケレケレケレ」と鋭い鳴くことがあり、繁殖期には「ピョー、ピョー」と口笛のような声も出す。



➤ 成果品 web図鑑

齧歯目 ネズミ科

カヤネズミ

カヤネズミ属

Micromys minutus

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

【生息環境】

低地の畑や水田、休耕地、沼沢地、河川敷などの水辺のイネ科植物の密生した草地に多い。

【形態】

大きさは、5～8cm。昆虫類、イネ科植物の種子、野イチゴなどを採食する。普段は単独で生活を行う。体毛は背面は暗褐色、腹面は白色である。植物の葉を巧みに編んで、茎の途中に鳥の巣のような球形の巣をつくり、休んだり子どもを育てたりする。冬は地下に掘ったトンネルで過ごす。また、植物を上り下りするときは、長い尾の先を茎に巻きつける。

【分布】

本州（中部以南）～九州。

【豆知識】

日本最小のネズミ。萱とはススキのことで、実際にススキなどのイネ科植物が生い茂る草原に多い。



カヤネズミの巣 (2020.8.31)

➤ 成果品 web図鑑

食肉目 イノシシ科

ニホンイノシシ

イノシシ属

Sus scrofa leucomystax

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

【生息環境】

里山に生息する。北海道と市街地を除いて、ほぼ日本全域に分布する。

【形態・生態】

頭胴長は120～150cm、肩高は60～75cm、体重は100kg。大陸のイノシシよりも小さい。雑食性を示すが、実質的に草食性。昼行性だが、人間の影響により二次的に夜行性を示す。産子数は2～8子（ふつう3～5子）。楕円形のくぼ地に落ち葉などを敷いて巣をつくる。寿命は野生で5～10年前後と思われる。

【分布】

日本には2亜種が生息し、本州・四国・九州を中心にニホンイノシシ (*S. s. leucomystax*)、奄美・沖縄の南西諸島にはリュウキュウイノシシ (*S. s. riukiuanus*) がいる。

【豆知識】

子イノシシは生後3～4ヶ月まで背中に縞模様がありウリ坊と呼ばれる。



(2020.7.22)



(2020.7.15)



2020/07/15 07:51:05

鳥取大学・日南町連携事業報告会 日南町福万来における エコツーリズム推進のための ホタル生息地に関する調査研究

鳥取大学農学部
葉狩怜也

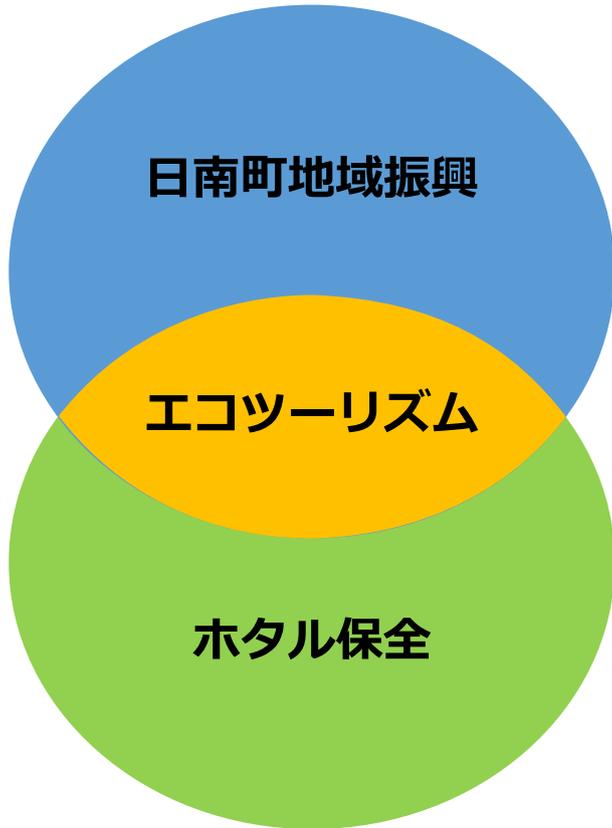
写真提供：日南町

目次

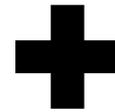
- 背景と目的
- ゲンジボタルとは
- 調査方法
 - ▶ 調査地の概要
 - ① 幼虫の捕獲調査
 - ② 礫が与える流速への影響調査
 - ③ 河床粒径調査
 - ④ カワニナの生息密度調査
 - ⑤ 幼虫の上陸調査
 - ⑥ ホタル成虫の発光調査
- 結果および考察
 - ① 幼虫の捕獲調査結果
 - ② 礫が与える流速への影響
 - ④ カワニナの生息密度
 - 本流における幼虫が好む環境
 - ⑤ 幼虫の上陸調査
 - 農業用水路の考察
 - ⑥ ホタル成虫の発光調査結果
 - 成虫の好む環境の考察
- 結論

背景と目的

エコツーリズムとは、対象となる地域の自然環境や歴史文化を体験し、学ぶとともに、保全に責任を持つ観光の在り方。



ゲンジボタルとヒメボタルを鑑賞することができ、例年多くの鑑賞客が訪れている。



自動車の夜間通行止めや鑑賞時のライトの禁止など、ホテルの保全に力を入れている。



ヒメボタル

七夕の頃、杉林の中でチカチカとフラッシュのように短い光を放つ ヒメボタル。
短い命の中、その命をつなごうと一生懸命にオスとメスが光で会話を交わしています。

- 人工光(懐中電灯・ストロボ・車のライト等)を照らさないでください。ヒメボタルの大切な光の会話の妨げになります。
- 静かに鑑賞してください。大きな声や物音に敏感です。
- 虫除けスプレーや蚊取り線香などを使用しないでください。ボタルも虫です。
- ホテルを捕まえないでください。
- 生息地内に立ち入らないでください。メスは飛べないので、踏みつける恐れがあります。

マナーを守り、ヒメボタルの輝く地域づくりにご協力をお願いします。

問合せ先 日南町山上地域振興センター
TEL.0859-82-0933

日南町

ふくまき 山上、福万来のヒメボタル

「福が万と来る」と書いて「福万来」という地名です。幸せなことがたくさん来そうなそんな予感。福万来のヒメボタルはすべて自然発生のホテル達です。
蛍の光は、太古の昔から明かりとして利用されていたらしく、ヒメボタルは杉林や竹やぶに生息する森のホテルです。ホテルの輝きはどこか懐かしく心癒される光。「昔話かくや姫」の竹の光もヒメボタルの光を寓話化したものではないでしょうか…

ヒメボタルからお願い

「ヒメボタルの里 福万来」では、ヒメボタルの保護活動に地域取り組んでいます。
ヒメボタルを鑑賞するときは次のことを守って光の鑑賞を楽しんでください。

- ①懐中電灯や車の光、ストロボなどの人工光が苦手なホテルのフラッシュコミュニケーションの妨げになり繁殖減少の原因となります。
- ②大きな声や物音に敏感ですから静かにしてね。
- ③ホテルも虫です。虫除けスプレーや蚊取り線香は、ヒメボタルの命にかかります。使用しないでね。
- ④ホテルを捕獲しないでください。ヒメボタルはこの環境だからこそ生息できているのです。
- ⑤生息地に踏み入らないでください。陸性のホテルです。メスのヒメボタルは羽が退化し飛べないので、湿った草むらなどに生息しています。
- ⑥鑑賞する際は、スック、長靴をお願いします。ヤブなどに入らないでください。環境保全のため、ゴミは持ち帰りましょう。

“ヒメボタル”ってどんなホテル?

一般にホテルといえば源氏ホテルや平家ホテルが有名です。いずれも小川などに生息し、カワナやヒメタニシなどを食べるホテルです。これに比べヒメボタルは、森に生息する、体長が1cmにも満たない小さなホテルです。そのため、産卵数も源氏ホテルの10分の1程度です。陸生のベッコウマイマイなどを、成虫になるまでに約50個食べると言われています。オレンジ色の光を放ちフラッシュコミュニケーション(光の会話)で相手を探します。光るのはオスとメスが互いの相手と交信を続け愛を確認し合いメスのところに降りて交尾します。メスは羽が退化し飛べず地表を移動しながら2~3日の「儚い」命です。オスは7日間の命の中で1~2mの高さを乱舞します。

ヒメボタルの生息

和名: ヒメボタル	発生時期: 7月上旬~7月中旬
学名: Hotaria Parvula KIESENWETTER	産卵数: 50~100個前後
すみか: 杉林・ヒノキ林・竹やぶの湿った草むらなど	短い命の中、一生懸命に生きようとしています。

「自然が大好きで、生物を愛し心」そんな子とホテルはお友達になりましたがっ！

ヒメボタルキャラクターグッズ

福万来ヒメボタルPRキャラクターグッズを、作っております。数に限りがありますが、皆様に親しみを持っていただき、さらに収益金をヒメボタル保護活動に使うことを目的にしております。

○Tシャツ ○うちわ ○シール
駐車場でTシャツを限定販売いたします。

ご案内マップ

18:30~21:00まで夜間フラッシュコミュニケーションが楽しめます。

ヒメボタル生息地
ホテルのために車は駐車場に停めて徒歩をお願いします。

ご連絡先 日南町山上地域振興センター 山上まちづくりの会 TEL: 0859-82-0933

しかし

- ・福万来におけるホタルの生息状況の把握はヒメボタルしか行われておらず²⁾3)、ゲンジボタルは未調査である。
- ・ゲンジボタルの研究は河川下流の平野部が主体⁴⁾⁵⁾⁶⁾で、福万来のような流速が速い山間地では、知見が少ない。

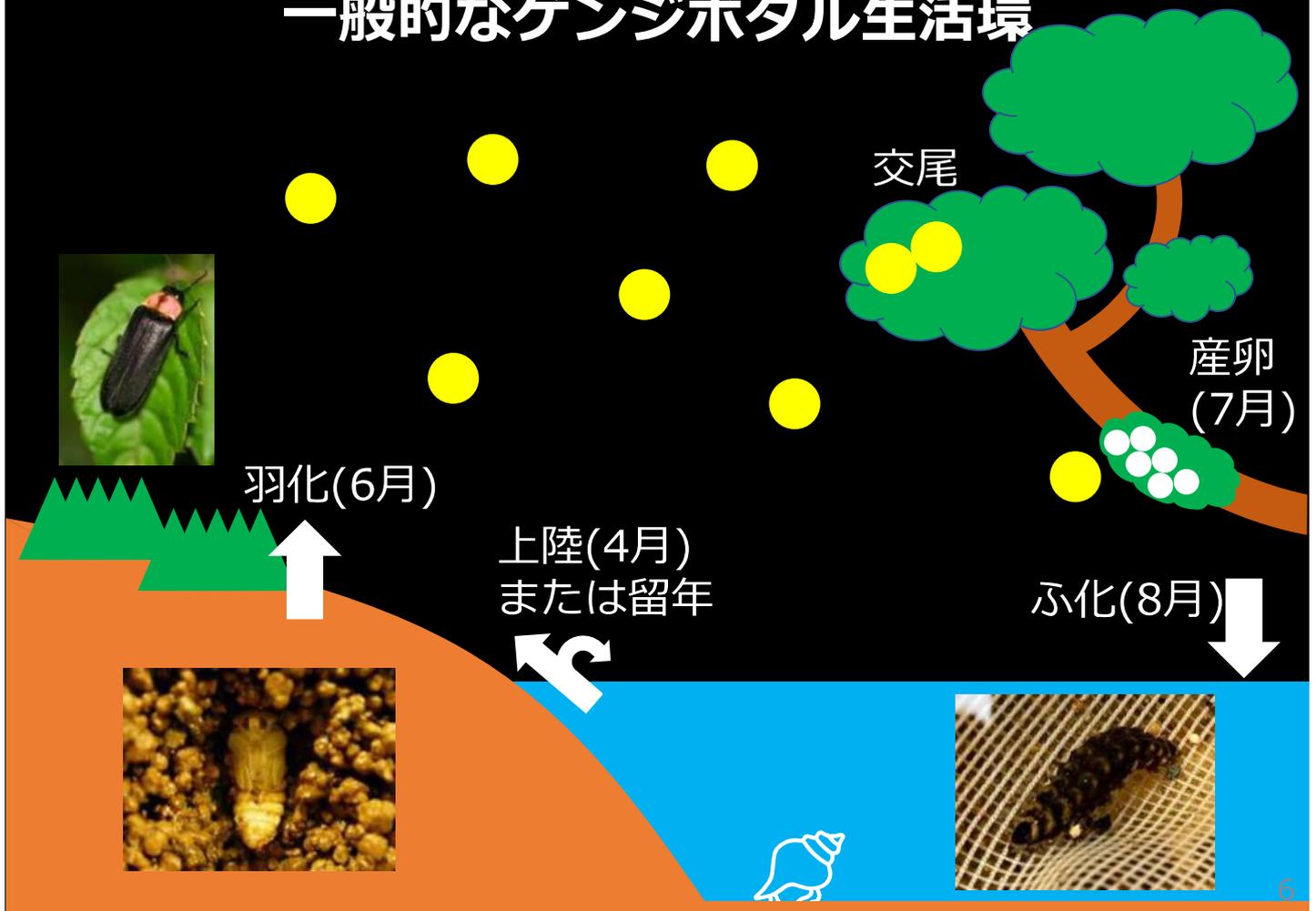
➡ 日南町福万来におけるゲンジボタルの生息環境の把握を目的とする。



2) 渡津拓郎(2006年)鳥取県日南町におけるヒメボタルの生息状況とエコツーリズム推進上の課題
3) 向井紳(2016年)スギ・ヒノキ人工林型ヒメボタル生息地における森林施業の影響

5

一般的なゲンジボタル生活環



6

ゲンジボタル

学名 : *Luciola cruciate* Motschulsky

形体	生息場所	生活に必要な要素
成虫	川辺	交尾のための暗い空間
		飛翔空間
		交尾・休息するための場所
卵	川岸	水面周辺の苔
幼虫	川底	浮き石
		カワニナ(餌)
蛹	川岸	柔らかい土壌

㊦遊磨正秀,生田和正(2000)ホタルとサケ,p38

7



調査地

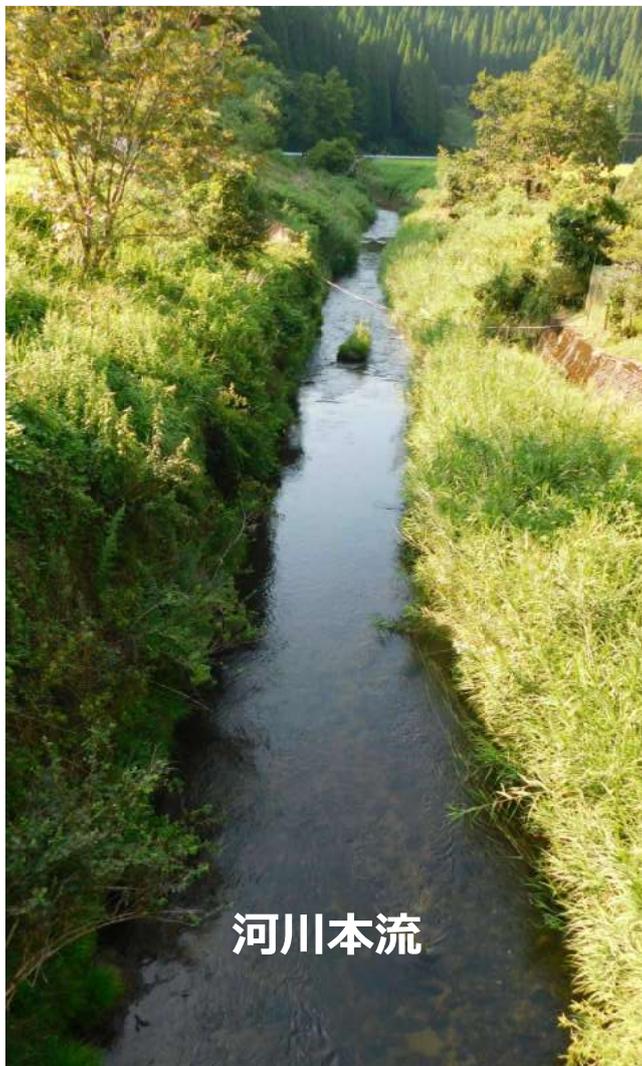


福万来 日野川水系小原川

標高 約420m。年間降水量 1644mm。年平均気温 12.4℃*

鳥取県日野郡日南町茶屋(標高490m)の2019年気象データ⁸⁾を利用。

*年平均気温は標高補正值。



河川本流



農業用取水堰



U字溝

土水路

農業用水路

日野川水系小原川

・本流

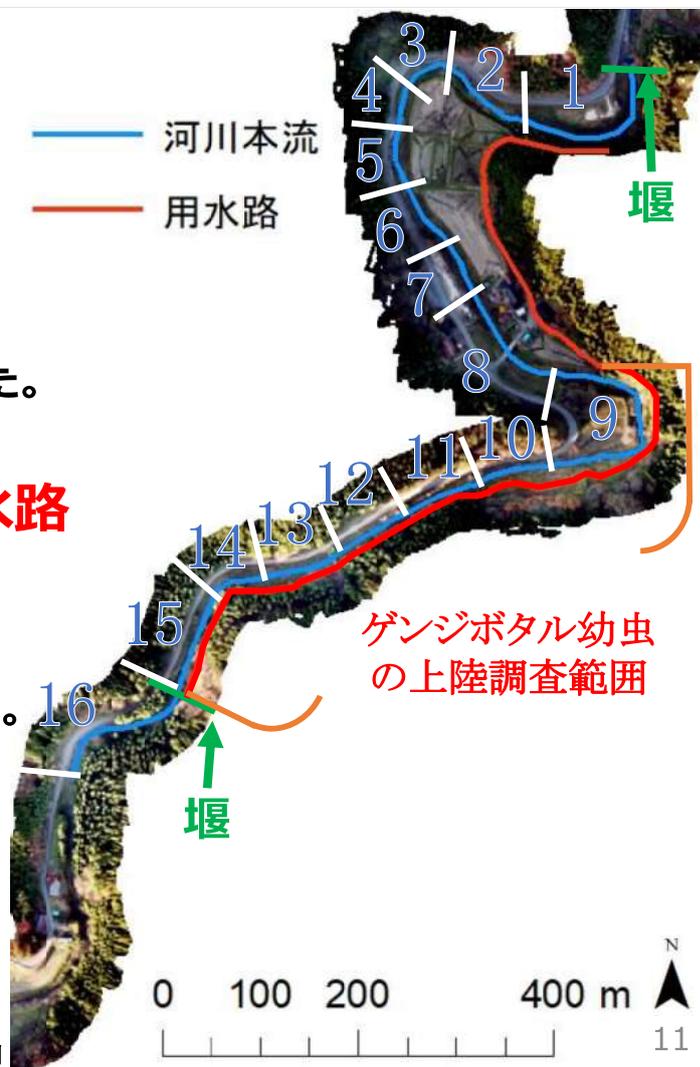
対象とする調査範囲は延長1,560m。
16区間に分け、捕獲調査などを行った。

・本流より分流した農業用水路

延長1,110mのうち人家より
上流側710mを調査範囲とした。
水路の種類には、
土水路、U字溝、ハウエル管があった。

・農業用取水堰

河川の上流と下流部にある。

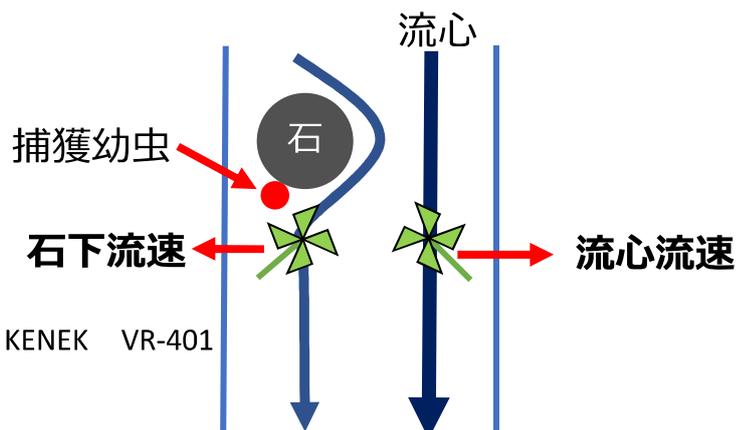


使用機材: Mavic Pro
撮影日: 2019年11月21日

ゲンジボタル幼虫の捕獲調査

期間: 2020年4/7~30と9/30~11/11。

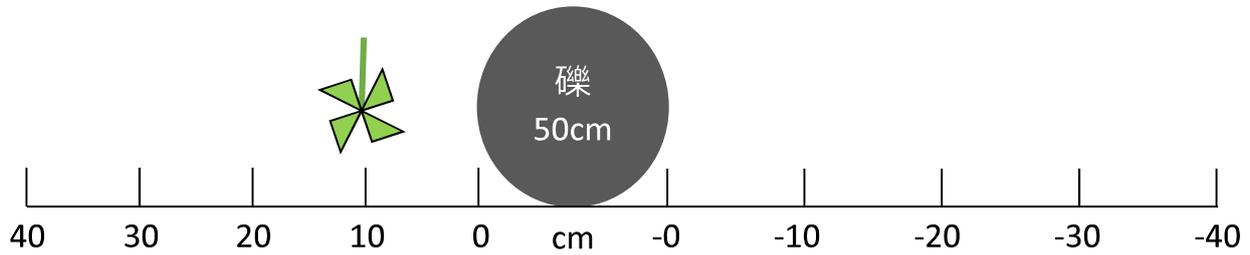
方法: 用水路および河川全域を網と箱メガネを使用し、捕獲調査を行った。
捕獲できた場合は位置情報と河床粒径、プロペラ式流速計*で流心と捕獲地点(石下)の2ヶ所で流速を記録した。



砂: 0.063~4mm, 中礫: 4~64mm, 大礫: 64~256mm, 巨礫: 256mm~¹⁰⁾

礫が与える流速への影響調査

方法：プロペラ式流速計を用いて、10cm間隔で50cmの礫の前後の流速を計測した。これを計2回行った。



河川本流の河床粒径調査

方法：河川本流全域において、1m²単位で河床粒径を砂、中礫、大礫、巨礫、岩盤に目視で区分し、記録した。

13

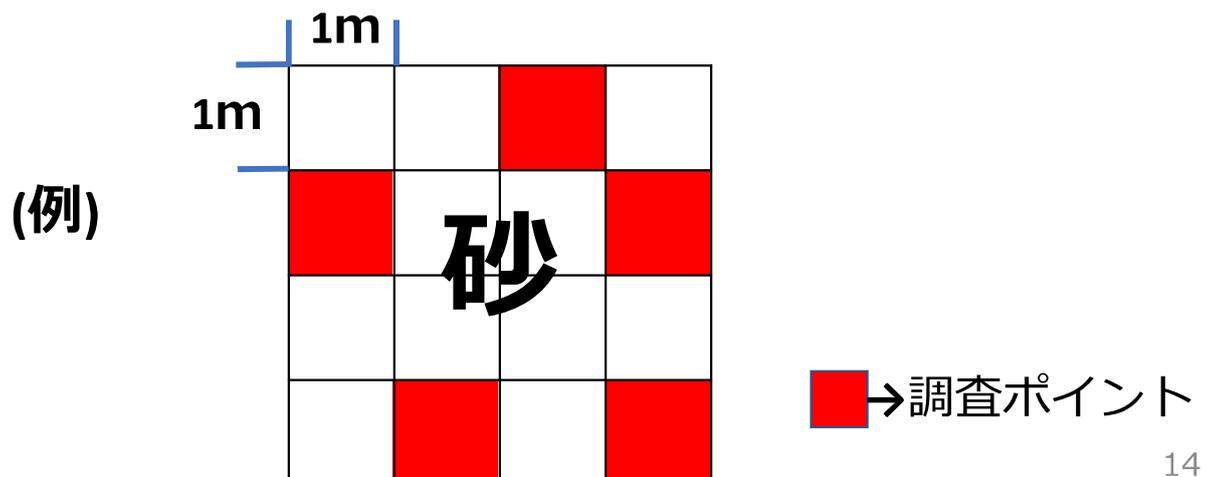
カワニナの生息密度調査

期間：2020年10月

方法：本流において、1種類の河床粒径に対して1m²の調査ポイントを5ポイント設ける。

その中をアミや箱メガネを使ってカワニナの個体数を計数した。

これを砂、中礫、大礫、巨礫で合計22か所で行った。



14

ゲンジボタル幼虫の上陸調査

期間：2020年5月上旬



方法：雨量が十分な夜間に農業用水路において、ゲンジボタル幼虫の上陸個体数と用水路の種類を記録した。



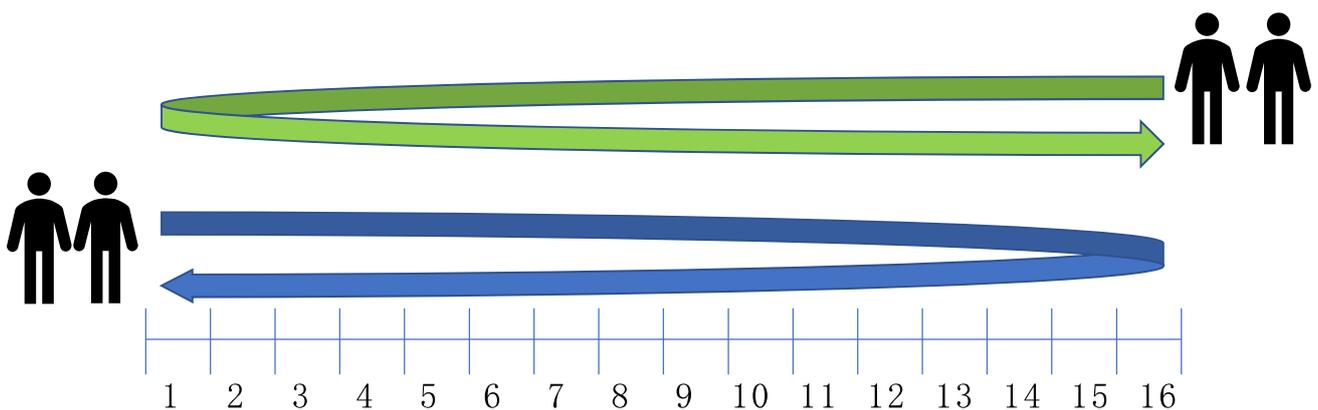
2020年5月15日撮影

15

ゲンジボタル成虫の発光調査

期間：2020年6月から7月

方法：20時～22時の間に16区間を2組(2人1組)で上流側、下流側に分かれてゲンジボタルの発光数を計数した。



16

ヒメボタル成虫の発光調査

期間：2020年6月から7月

方法：16区間それぞれにおいて観察ポイントを設け、
20時～22時のヒメボタルの発光数を計数した。

* 第2区間では、山側がコンクリートの壁になっており、計数できなかった。

ヒメボタルとは⁹⁾

ゲンジボタルとは違って幼虫が陸地で生活する。

成虫はゲンジボタルのように発光するが、発光間隔が1秒未満と短い。

メスは下翅が退化しており、飛ぶことができない。

17

結果および考察

河川本流における幼虫および周辺環境
用水路における上陸幼虫
成虫の生息環境

提供：日南町
写真は同地におけるヒメボタルの写真です。

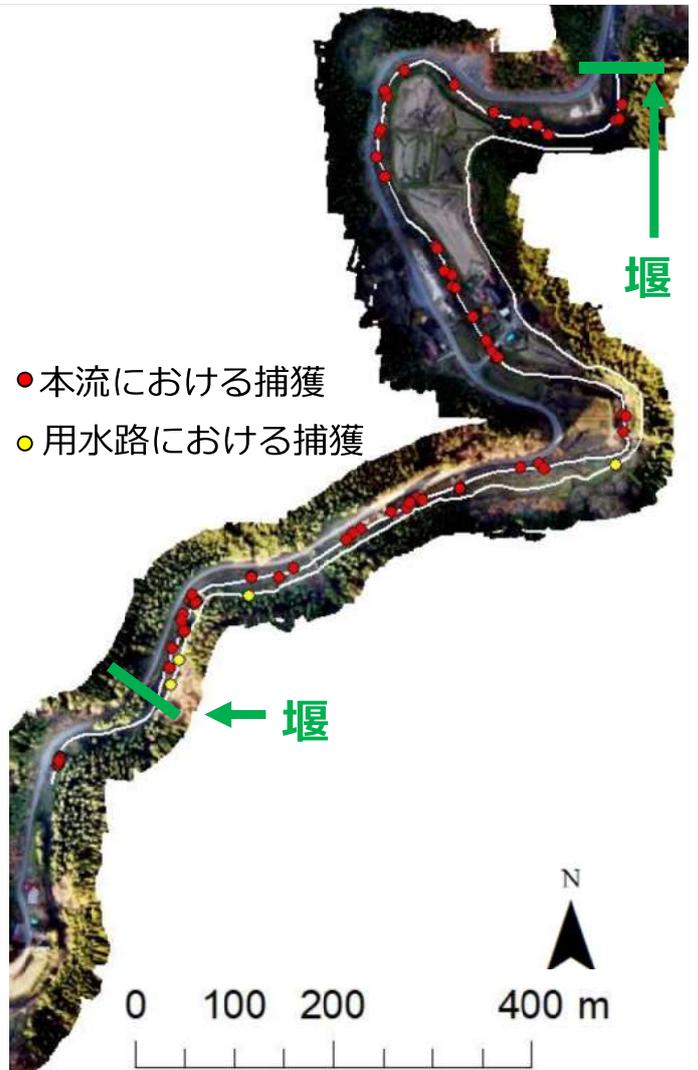
18

ゲンジボタル幼虫

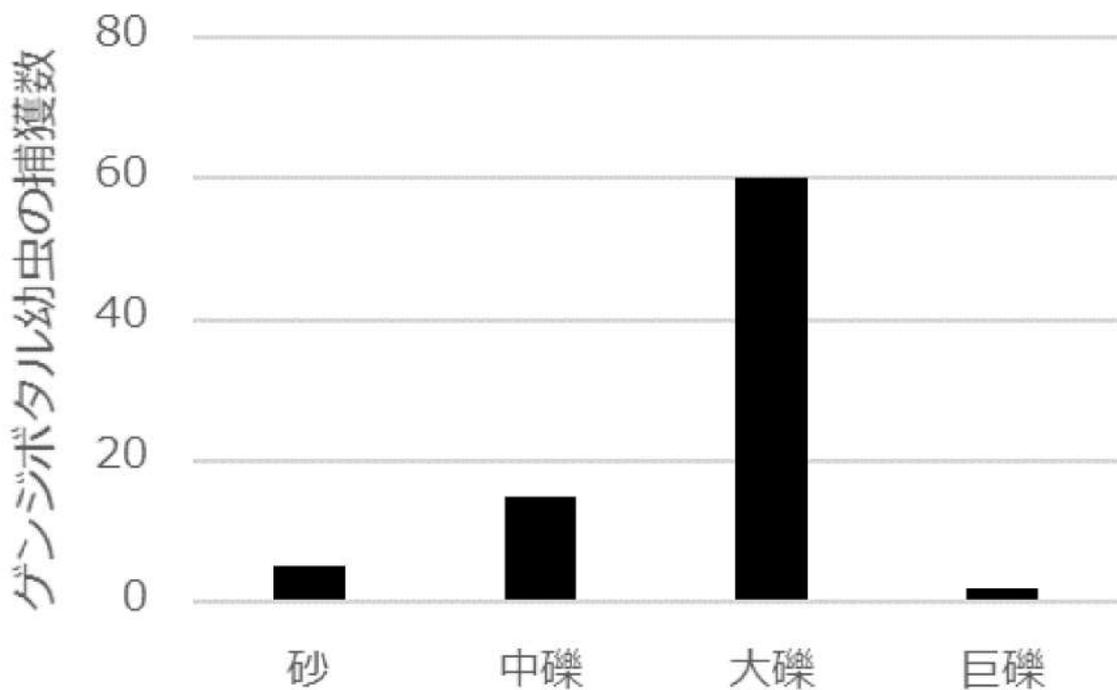


2020年4月17日撮影

捕獲個体数
河川本流：82個体
用水路：6個体

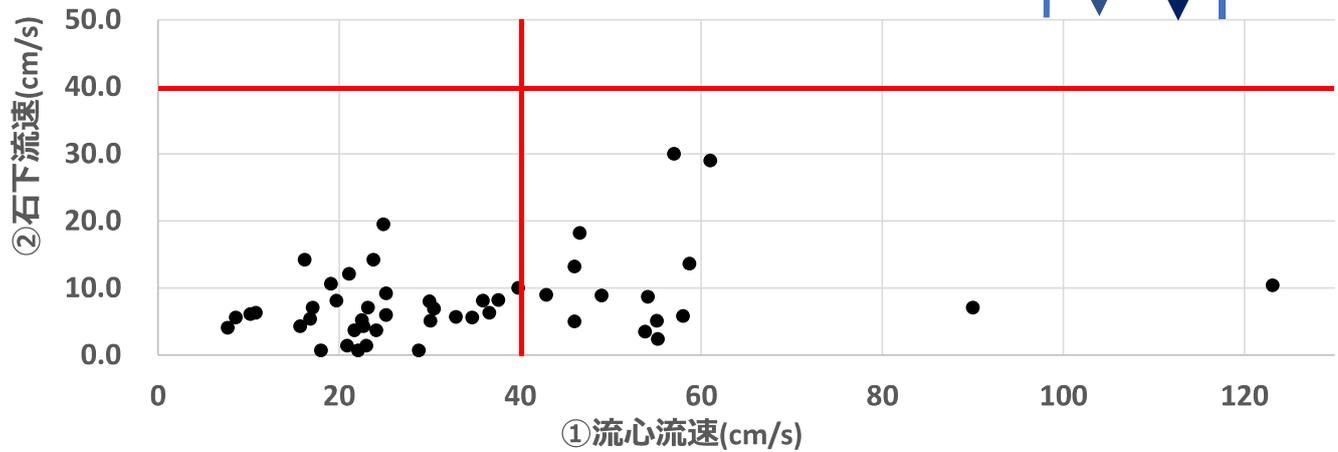
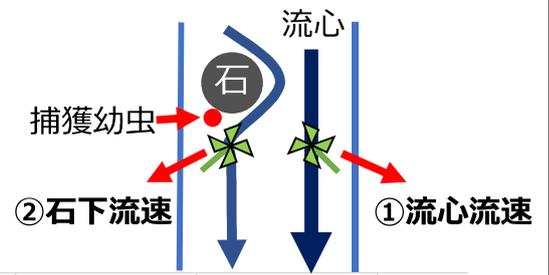


本流におけるゲンジボタル幼虫の捕獲数と河床粒径



➡ 主に大礫、次いで中礫から捕獲することができた。

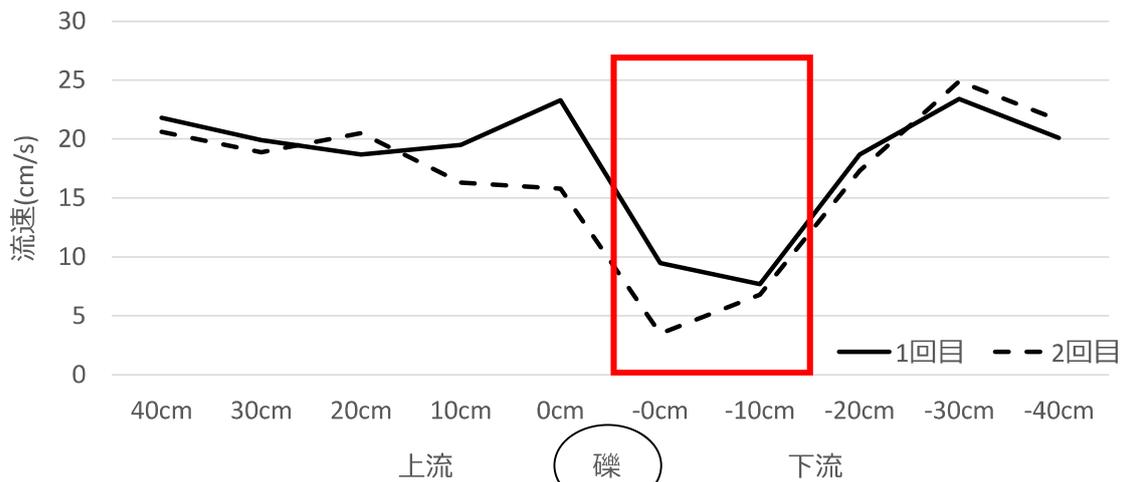
ゲンジボタル幼虫と流速



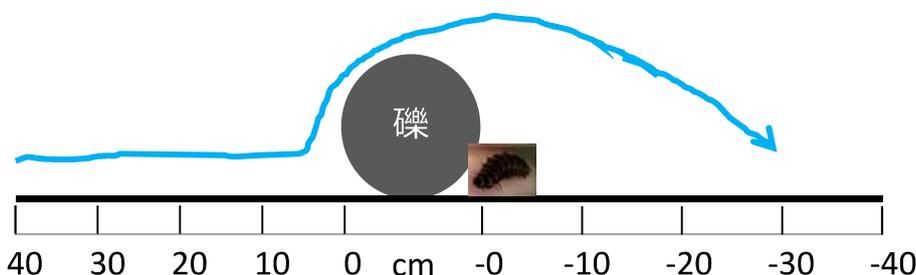
一般的なゲンジボタル幼虫が生息している流速は2.9~40cm/s¹¹⁾

➡ 捕獲できた場所のうち、捕獲地点直近の流心流速が秒速40cmを超えるところもあったが、捕獲できた場所の石の下の流速は秒速40cmを下回っていた。

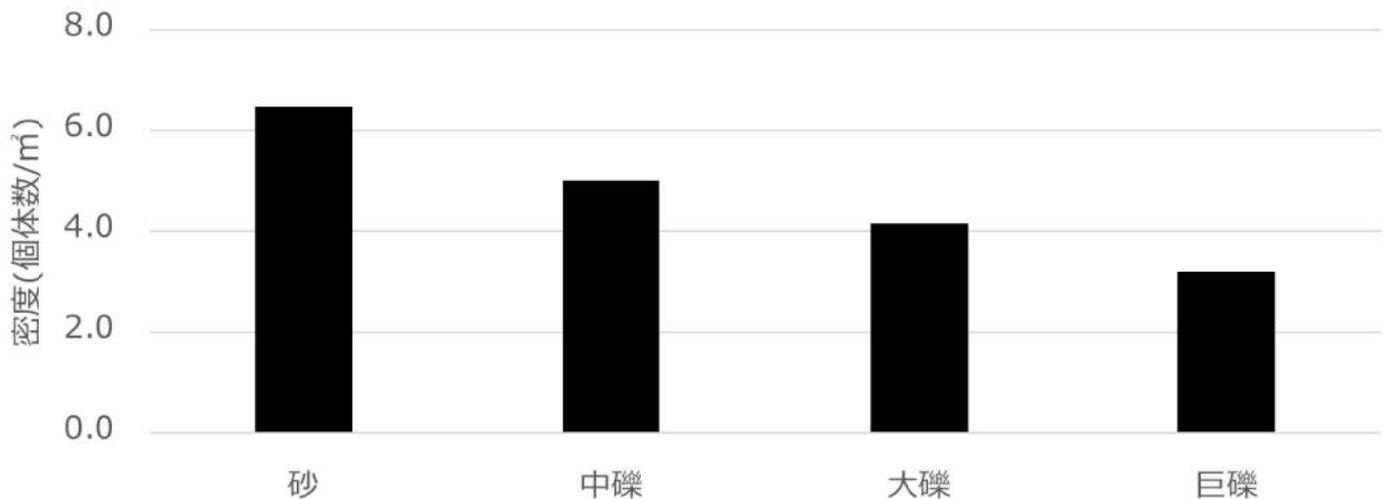
礫が与える流速への影響



➡ 流れが速い河川内でも、礫直下の流れが緩やかなところを見つけ生息している。



本流におけるカワニナの密度(個体数/m²)と河床粒径



➡ 粒径が細かい河床粒径に多い傾向があるが、どの粒径にも一定密度生息している。



砂:0.063~4mm,中礫:4~64mm,大礫:64~256mm,巨礫:256mm~

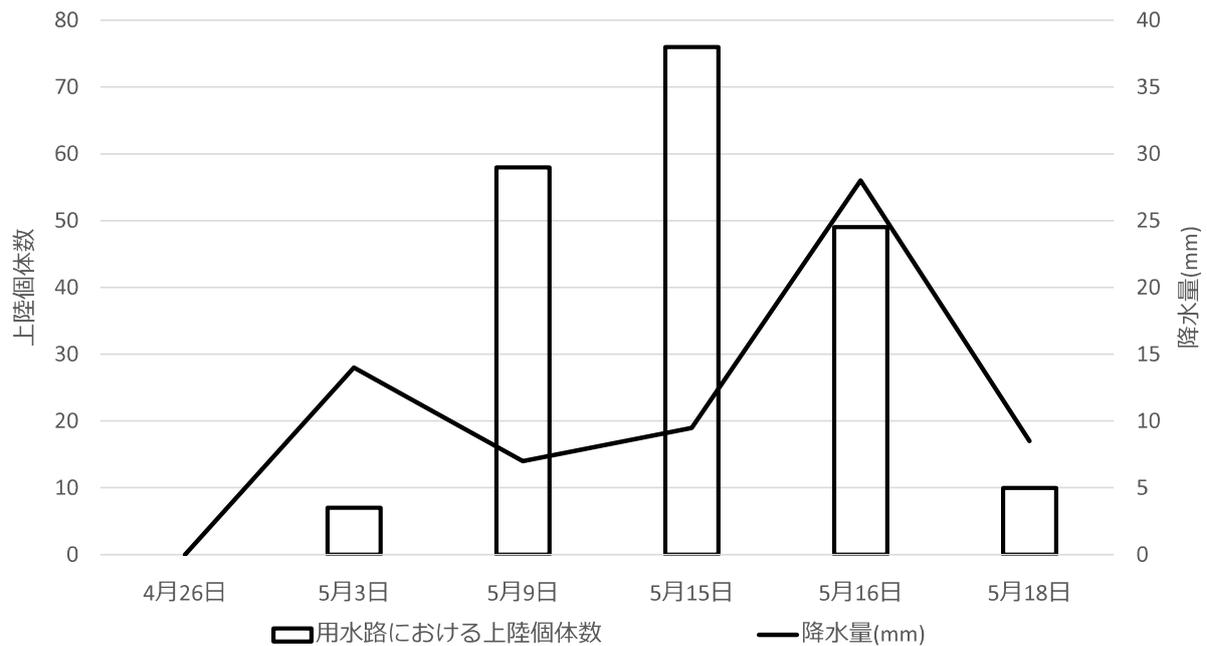
本流における幼虫が好む環境

- 1 河床粒径は大礫と中礫を選好している。
流心の流速が速くても、礫直下の流速が遅いところをみつけて生活している。
礫には流速を遅くする効果がある。
- 2 カワニナはどの河床粒径にも一定数生息している。



- 1 福万来などの山間地では、河川の流速が速く、幼虫の生息に適していないと考えられていたが、礫の下など、局所的に流速が遅くなっている場所を見つけて生活していた。
- 2 餌資源であるカワニナは河床粒径に関わらず生息していた。

農業用水路におけるゲンジボタル幼虫の上陸個体数



- ➡
- ・ 5月9～16日が主な上陸時期であった。
 - ・ 上陸幼虫が確認できたのは土水路部分であった

25

用水路における幼虫が好む環境

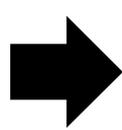
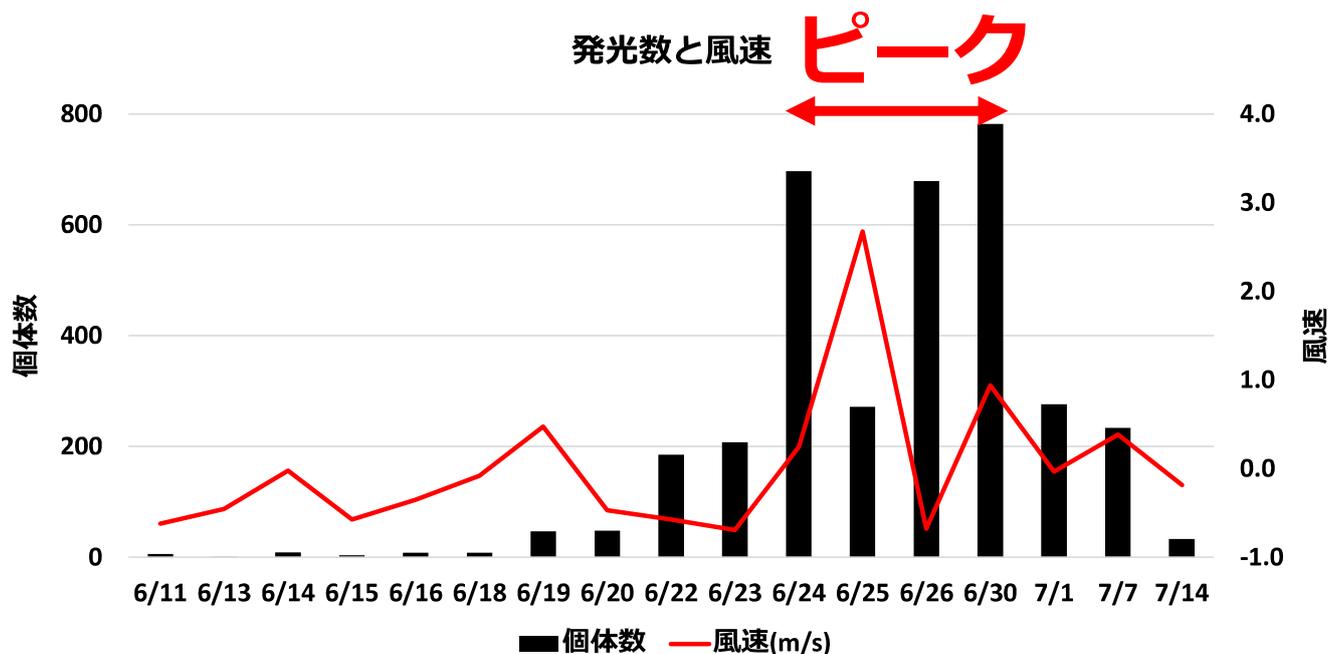
- ・ 上陸個体数は総数200個体だった。
- ・ 上陸が確認できたのは土水路のみだった。
- ・ ゲンジボタル幼虫が確認できたのは、農業用水路上流部(調査範囲)のみだった。



用水路がゲンジボタル幼虫の生息場所として利用されている。
特に、用水路の中でも土水路が大事

26

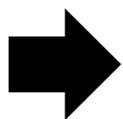
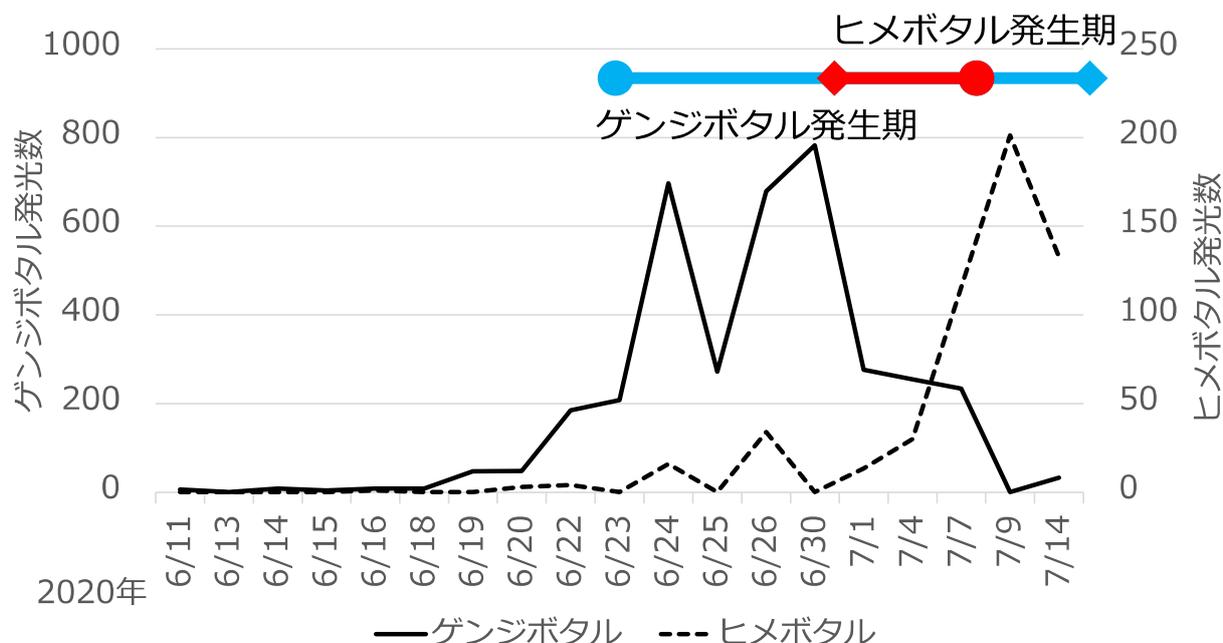
本流におけるゲンジボタル成虫の発光数の推移



2020年福万来における
初観測日は6月11日。
発光ピークは6月24日～6月30日。

6月25日に発光数が減ったのは風速が速かったため、飛翔できなかったと考えられる。

ゲンジボタルとヒメボタルの発光数の推移



- ・ゲンジ・ヒメボタルの発光ピークにズレがある。
- ・7月1日～7日は両ホタルを同時に鑑賞できる。

ゲンジボタルとヒメボタルの鑑賞

ゲンジボタルとヒメボタルの発光ピークは時期的ズレが生じていたが、7月1日～7月7日の期間は両ボタルを一定数観察できた。



2020年

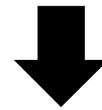
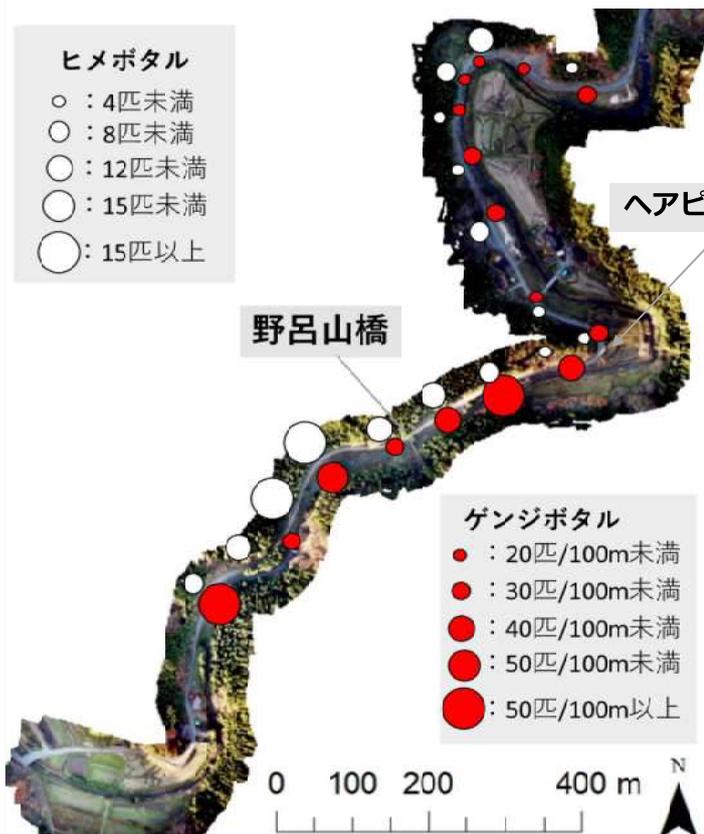
日	月	火	水	木	金	土
			6/24	/25	/26	/27
/28	/29	/30	7/1	/2	/3	/4
/5	/6	/7	/8	/9	/10	/11
/12	/13	/14				

■ ゲンジボタル発生時期 ■ ゲンジ・ヒメボタルの同時発生時期
■ ヒメボタル発生時期

この期間でのエコツアーリズムが適期になる。

29

ゲンジボタルとヒメボタルが多く発光していた場所



ゲンジボタルの発光はヘアピンカーブの上流側から調査地の最上流まで多かった。

ヒメボタルの発光は野呂山橋の上流側から農業用取水堰の上流部まで多かった。

30

ゲンジボタル成虫が好む環境

ゲンジボタル成虫の発光数が多かったところ所は、何が良かった？

- ・ 幼虫捕獲密度(匹/100m)が高いところ？
- ・ 好適河床粒径(幼虫が多くいた河床粒径)が多くあるところ？
- ・ 本流は土護岸とコンクリート護岸のどちらがいいのか？
- ・ 樹木や草地が多いほうがいいのか？
- ・ 農業用水路があるほうがいい？
- ・ 農業用取水堰があるほうがいい？

上記の要因が、発光数にどれだけ影響を与えているか、重回帰分析という数学的手法で解析した。

31

ゲンジボタル成虫が好む環境要因

- 1位 河川本流の土護岸割合が高い
- 2位 土地被覆が自然的（森林など）
- 3位 農業用取水堰がある
- 4位 農業用水路がある
- 5位 幼虫捕獲密度が(匹/100m)が高い

32

結論



結論

- ①河川本流において、幼虫は速い流速から身を隠すために、礫と河床との間で生活している。
- ②餌資源であるカワニナは、河川全域に一定数生息している。
- ③農業用水路がゲンジボタル幼虫の大事な生息場所となっている。現状、調査範囲（人家より上流側710m）の農業用水路における土水路の割合は74%であり、土水路を維持するために、補修の際にはU字溝化しないなどの留意が必要である。

結論

- ④2020年福万来におけるゲンジボタル幼虫の上陸が確認できたのは5月3日～18日。
上陸ピークは5月9日～16日。
- ⑤調査期間中、ゲンジ・ヒメボタルの発光が確認できたのは、2020年6月11日～7月14日。
ゲンジボタルの発光ピークは6月24日～6月30日。
ヒメボタルの発光ピークは7月7日～14日。
ゲンジ・ヒメボタルは2020年7月1日～7日に同時に発光が確認できた。

結論

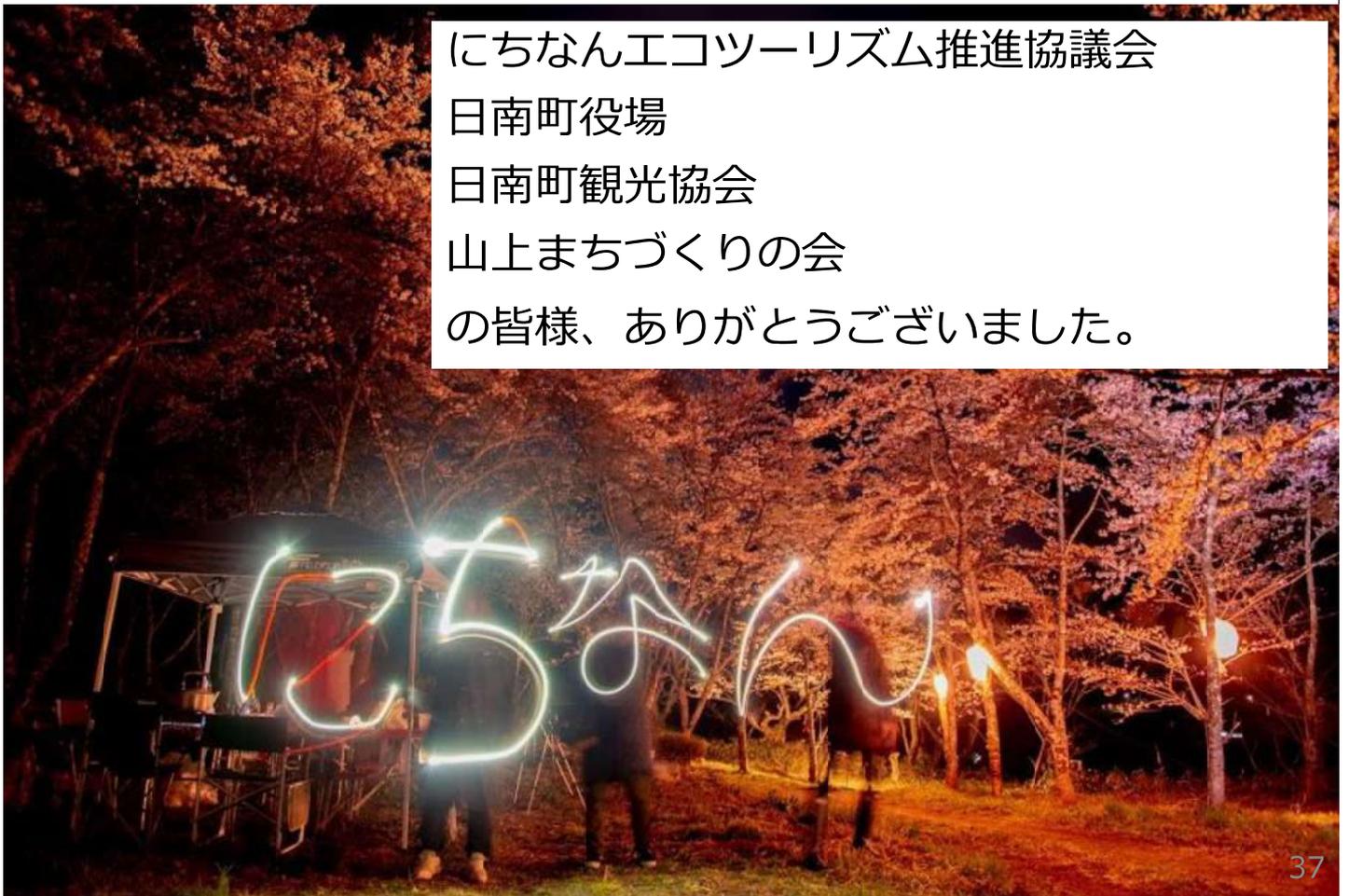
⑥ゲンジボタル成虫は

- ・ 河川の護岸が土護岸であること
- ・ 河川周辺に樹木や草地があること
- ・ 農業用取水堰や農業用水（土水路）があること

上記が、成虫の重要な環境要因であった。

謝辞

にちなんエコツーリズム推進協議会
日南町役場
日南町観光協会
山上まちづくりの会
の皆様、ありがとうございました。



37

引用文献

- 1)環境省,エコツーリズムのススメ
<https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/about/index.html>
- 2)渡津拓郎(2006年)鳥取県日南町におけるヒメボタルの生息状況とエコツーリズム推進上の課題
- 3)向井紳(2016年)スギ・ヒノキ人工林型ヒメボタル生息地における森林施業の影響
- 4)藤宗朋樹、河口洋一、竹川有哉、藪原佑樹、山城明日香(2017)吉野川市美郷川田川におけるカワニナの生息密度とホタルの飛翔数の関係,土木学会論文集G(環境),Vol73,No.6(環境システム研究論文集 第45巻),II_373-II_377,2017
- 5)渋谷桂子、大場信義、藤井英二郎(1994)三浦半島野比地区におけるゲンジボタルの成虫個体数に影響を及ぼす生息環境要因の解析,ランドスケープ研究,58(5),121-124
- 6)宮下衛、小栗幸雄、房前和朋(1998)ゲンジボタル上陸幼虫の行動と河床・護岸の形態との関係,環境システム研究,26,29-36
- 7)遊磨正秀、生田和正(2000)ホタルとサケ,p38
- 8)気象庁,過去の気象データ・ダウンロード
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php#!table>(参照日2020年9月16日)
- 9)古河義仁(2011)ホタル学,p4-6.
- 10)柴正博(2015)地質調査入門.東京大学出版部,37p
- 11)日本生態系協会ハビタット評価グループ(2015)ゲンジボタル幼虫のHISモデル(2015年3月版)

38

ご清聴ありがとうございました





『中山間地域の課題解決及び SDGs推進に関する連携協定』



日南町



鳥取大学
Tottori University



SoftBank



社会貢献

Corporate Social Responsibility

取り組むべき課題の整理

日南町の現状・課題の分析のため・・・

平成30年度 まちづくりアンケートを実施 → 住民の満足度の把握

令和元年度 雇用・就労アンケートを実施 → より詳しい満足度の把握

令和 2年度 『第6次 日南町総合計画』を策定
→ 今後10年間の日南町のまちづくりの方向性を明らかにした。

プロジェクトの立ち上げ

日南町

①小学生の居場所確保と
学びに対する意識向上
(案)

○プロジェクトメンバー

- ・教育課
- ・日南小学校
- ・企画課
- ・鳥取大学
- ・ソフトバンク

②成長記録を町民と行政
で共有しながら進める
子育て支援(案)

○プロジェクトメンバー

- ・福祉保健課
- ・企画課
- ・鳥取大学
- ・ソフトバンク

③日南町ショート
タイムワーク(案)

○プロジェクトメンバー

- ・企画課
- ・日南町商工会
- ・鳥取大学
- ・ソフトバンク

④保育、介護分野に
おけるICT化(案)

○プロジェクトメンバー

- ・にちなん保育園
- ・企画課
- ・ソフトバンク

鳥取大学×ソフトバンク×日南町連携事業

日南町ショートタイムワーク プロジェクト 事業報告

2021.3.1

鳥取大学農学部 木原奈穂子

1

1. プロジェクト概要

- 「中山間地域の課題解決に関する連携協定」に基づく4つのプロジェクト
 - ① 小学生の居場所確保と学力向上
 - ② 母子手帳電子化による子育て支援
 - ③ 日南町ショートタイムワーク
 - ④ 保育, 介護分野におけるICT化
- プロジェクト背景
日野郡の求人倍率は他と比べて高水準
一方、『雇用・就労アンケート』(R元年度実施)で60・70代の雇用の場を求める声
子育て世帯を含め, ショートタイムワークでのマッチングの重要性が高まる
- プロジェクトの作業仮説
ショートタイムテレワーク, ショートタイムワーク等の仕組みを活用した業務管理, 業務委託, 業務発注のシステム構築により解決可能なのではないか
(例: 岡山県奈義町「しごとスタンド」)

2

2. 実施体制

●プロジェクトメンバー

日南町企画課 / 日南町商工会 / ソフトバンク / 鳥取大学

●運営方法

- ① オンライン会議を通じた打合せ
→ 共通理解の醸成
- ② 先進地視察(岡山県奈義町)
→ 事例研究
- ③ 町内事業者へのアンケート実施
- ④ 町内事業者へのヒアリング
→ EBPMに基づく運営

3

3. 運営状況

実施日	活動内容	詳細・備考	報告
R2.6.17	第1回打合せ	プロジェクト運営に対する申し合わせ	
R2.6.25	先進地視察	岡山県奈義町「しごとスタンド」運営方法の確認	4-1
R2.7.3	第2回打合せ	視察結果の共有 事業者への第1回アンケート企画 (選抜式によるアンケート)	
R2.7.15	第3回打合せ	第1回アンケート内容・実施計画の検討	
R2.10.29	第4回打合せ	第1回アンケート結果の共有 事業者全体への第2回アンケート企画	
R2.11.6	第5回打合せ	第2回アンケート案の最終決定	
R2.11.12 ~12.4	第2回アンケート実施	随時, アンケート結果の集計と分析 (学生によるショートタイムワーク)	4-2
R2.12.25	第6回打合せ	第2回アンケート結果の共有 事業者ヒアリングの企画	
R3.2.15 ~2.16	事業者ヒアリング	日南町の主幹産業を担う事業者(農林業・建設業)への 雇用・就業に関するヒアリング	4-3
R3.3.4	第7回打合せ(予定)	ヒアリング結果の共有, ショートタイムワーク部会の検討	

4

4. 実施内容報告

4-1. 「しごとスタンド」(奈義しごとえん運営)の視察

- 視察日時
令和2年6月25日(木) 10:00~12:00
- 視察メンバー
日南町・商工会・鳥取大学
- 視察ヒアリング内容および結果
 - ・実施(組織)体制
→ 一般社団法人として独立, シルバー人材センター等との協業
 - ・実施に至る経緯
→ 地方創生プロジェクトによる
 - ・主な業務内容
→ 施設管理, 行政機関の封入等の作業, 地域の草刈り
 - ・活動収支
→ 施設管理受託等による継続可能な収支体制を維持

5



導入しました

急募

お掃除が好きな方・きれい好きな方募集中!

週1日1時間〜、自分の都合に合わせて短時間実施可能。未経験OK!

一般社団法人 奈義しごとえん

〒708-1325 岡山県瀬戸郡奈義町尾島1588-2
TEL:086-20-1825/FAX:086-20-1845

項目	金額	備考
売上総利益	22,350	登録者報酬他
販売費・一般管理費	12,323	
■販売費	272	
■一般管理費	12,051	役員報酬 1,302 役員報酬兼人件費 7,237 本部一般管理費 3,432 営業・広告費・雑費他
経営利益		
■営業利益		
■営業外利益		

6

4-2. 町内事業者へのアンケート調査

- 配布期間
令和2年11月12日(木)～12月4日(金)
- 配布方法
日南町・商工会・ソフトバンク(株)・鳥取大学の連名による
日南町からの郵送および商工会による手渡し
- 配布数および回収数
配布数:183通 回収数:100通
- アンケート内容
新型コロナウイルス感染症の影響 / 現状の雇用状況
求職状況 / 在宅ワークの導入可能性 / 経営状況
- 集計方法
学生(3年生)によるショートタイムワークでの集計(5人×2時間)
- アンケート結果
 - ・町内企業では、コロナが雇用・就業状況に与えた影響は小さい
 - ・現場作業が多く、雇用側は正規雇用を求めている
 - ・商工業者からの回答が多く、農林業作業への追加調査が必要

7

町内事業者の皆さま

令和2年11月

日南町
日南町商工会
鳥取大学
ソフトバンク株式会社

新型コロナウイルス感染症の影響と日南町雇用に関するアンケート調査 ご協力をお願い

日頃より日南町の商工・雇用対策行政にご理解とご協力をいただき有難うございます。
新型コロナウイルス感染症の影響と日南町雇用に関しまして、お忙しい時期とは思いますが、以下のアンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

日南町は、本年8月に「日南町と鳥取大学とソフトバンク株式会社との中山間地における課題解決及びSDGs推進に関する連携協定」を締結しました。この連携協定は日南町の地域課題の解決を図りつつ、持続可能な中山間地域を創造し、暮らしやすいまちづくりの実現に資することを目的とするものです。

今回のアンケートは、この連携協定に基づき実施するものです。

本アンケートの結果は統計的に処理され、個人が特定されることはなく、連携協定の目的以外には使用しません。

【アンケートの背景として】

平成30年度に実施した日南町『まちづくりアンケート』では、「雇用の場」を求める声が多岐にわたりました。一方、コロナ禍により状況が変化しているかもしれませんが、日野郡内の有効求人倍率は全国・鳥取県と比較しても高い状況となっており、「求人者」と「求職者」のミスマッチが生じている状況が見受けられます。日南町では「求人者」と「求職者」の現状を調査し、ミスマッチが継続的に発生している場合にはその解消に向けて、事業者の皆さまのニーズを把握し、今後の施策に役立てたいと考えております。

【問1 新型コロナウイルス感染症に関して】

○問1-1 新型コロナウイルスの発生は、企業活動に影響を及ぼしていますか？

- 影響はない 影響が続いている 影響は出たがすでに収束している
 現時点での影響はないが、今後影響が出る可能性がある

○問1-2 貴社の今年(2020年)8月の売上高は前年同月を「100」とすると、どの程度でしたか？

- 100以上 90以上 80以上 70以上 60以上 60以下

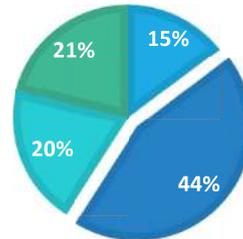
8

アンケート結果(概要)

●コロナが企業活動に与えた影響

影響がない	14	14.7%
影響が続いている	42	44.2%
影響は出たが既に収束している	19	20.0%
現時点での影響はないが、今後影響が出る可能性がある	20	21.1%
計	95	100.0%

有効回答率95.0%



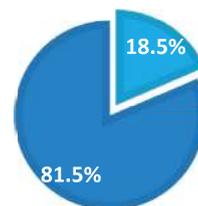
- 影響がない
- 影響が続いている
- 影響は出たが既に収束している
- 現時点での影響はないが、今後影響が出る可能性がある

●コロナによる働き方の変化

ある	17	18.5%
ない	75	81.5%
計	92	

有効回答率
92.0%

■ある ■ない



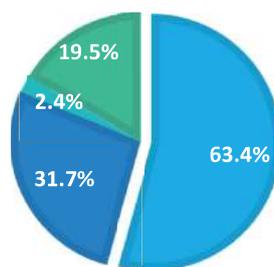
●現状の求職状況と雇用形態

求めている	41	42.7%
求めていない	55	57.3%
計	96	

有効回答率96.0%

正規雇用	26	63.4%
パート/アルバイト	13	31.7%
派遣雇用	1	2.4%
臨時雇用	8	19.5%
その他	0	0.0%
計	41	

回答数43, うち有効回答数41, 有効回答率95.3%

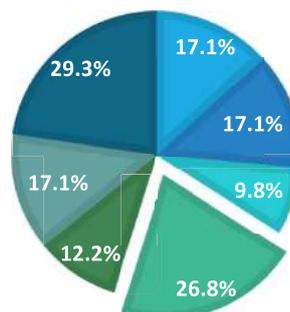


- 正規雇用
- パート/アルバイト
- 派遣雇用
- 臨時雇用
- その他

●求人雇用の作業内容

事務職	7	17.1%
軽作業	7	17.1%
パソコン作業	4	9.8%
土木作業	11	26.8%
農業作業	5	12.2%
林業作業	7	17.1%
その他	12	29.3%
計	41	

回答数43, うち有効回答数41, 有効回答率95.3%

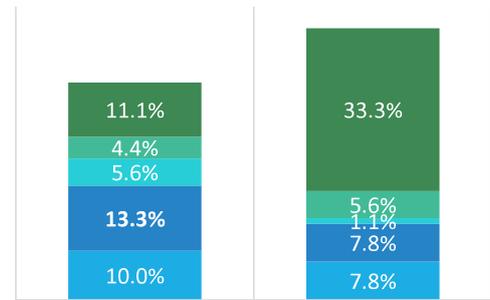


- 事務職
- 軽作業
- パソコン作業
- 土木作業
- 農業作業
- 林業作業
- その他

●企業形態別の求職状況

		人手が必要	人手は必要でない	総計
法人	株式会社	9(10.0%)	7(7.8%)	16(17.8%)
	有限会社	12(13.3%)	7(7.8%)	19(21.1%)
	その他	5(5.6%)	1(1.1%)	6(6.7%)
	形態不明	4(4.4%)	5(5.6%)	9(10.0%)
個人	個人事業主	10(11.1%)	30(33.3%)	40(44.4%)
計		40(44.4%)	50(55.6%)	90(100.0%)

有効回答率90.0%

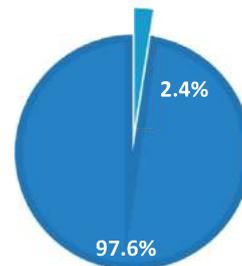


■法人 株式会社
■法人 有限会社
■法人 その他
■法人 形態不明
■個人 個人事業主

●在宅ワーク導入の現状

導入している	2	2.4%
導入していない	82	97.6%
計	84	

有効回答率84.0%



■導入している
■導入していない

4-3. 町内事業者へのヒアリング調査

●実施日時

令和3年2月15日(月)～2月16日(火)

●ヒアリングメンバー

日南町・商工会・鳥取大学

●ヒアリング先

日南町の事業者6者(農林業, 建設業を中心とする)

●ヒアリング内容

経営概況 / 業務内容 / 雇用・就業体制 / 求職状況
検討部会参画への意向※

●ヒアリング結果

- ・現場作業では正規雇用を求めている(テレワークの困難性)
- ・特殊技能が求められる業務内容での人材不足とOJT体制
- ・農作業や新規事業の一部で, ショートタイムワーク可能な業務あり
- ・地域資源維持のための活動も業務に含まれつつある

様

日南町
日南町商工会
ソフトバンク株式会社
鳥取大学

雇用・就業状況に関するヒアリング調査のお願い

平素、お世話になっております。早速で大変恐縮ですが首記に関しまして、現在、8月に日南町とソフトバンク株式会社、鳥取大学との間で締結いたしました連携協定に基づき、今後の日南町での雇用・就業の機会をより良いものとしたいと考えております。

つきましては、お忙しいところ大変恐縮ですが、貴社の雇用・就業の現状および将来への希望をお伺いさせて頂きたく、以下の質問に対して、可能な範囲で構いませんので、お教えいただけますと大変ありがたく思います。

ご協力のほど、どうぞよろしく願いたします。

Q1. 経営の概要（沿革、事業内容、従業員数など）をお教えください。

Q2. 現在、取り組まれている事業の実施体制（営業部・製造部等の組織体制およびそこの人員配置など）を、事業内容ごとにお教えください。

Q3. 現在、感じられている雇用・就業上の課題がありましたら、お教えください。

Q4. 雇用・就業以外で、課題と感じられていることがありましたら、お教えください。

Q5. SDGsをご存知かどうか、また取り組まれていることがありましたらお教えください。

Q6. 今後、事業を営まれていく上で、取り組んでいこうと思われている目標などがありましたらお教えください。

13

5. 今後の活動計画

●検討・企画すべき事項

① 子育て世帯や高齢者の就労(希望)状況の確認

- ・R2年度は雇用側の状況を重点的に調査
- ・非雇用側の現状の調査方法を検討、実施する必要

② 「日南町らしい働き方」検討部会の設立

- ・ヒアリングを行った事業者を中心にショートタイムワークをはじめとする町内での働き方を検討する部会を設立（これまで関係者で実施していた打合せを拡張）
- ・他地域からの就業や起業参入の可能性

③ 「協業コンソーシアム」設立と他地域への波及、他政策との連携（地縁団体等の人材不足、活性化を担う組織の基盤づくり 等）

- ・（検討部会を基盤に）「協業コンソーシアム」設立を検討
- ・コンソーシアムによる地域課題の掘り起こしと解決

14

●実施計画

年度	実施事項
R2年度	ヒアリング事業者への検討部会参画への打診 事業者間での協業の可能性の検討
R3年度	子育て世帯への就労に関するアンケート実施 地縁団体・市民団体等が担う作業状況の調査 「日南町らしい働き方」検討部会の設立 雇用側の希望と就労側の希望のマッチングシステムの検討 部会活動を中心とした就業・就労・雇用に関する勉強会の実施
R4年度	「協業コンソーシアム」の設立検討 他地域からの就業・起業の可能性の検討 他政策との連携可能性の検討

令和2年度鳥取大学・日南町連携事業実績報告

鳥取大学－日南町連携事業ワーキンググループ会議・連携事業報告会

第1回 令和2年 6月22日（オンライン開催）

第2回 令和2年12月18日（オンライン開催）

連携事業報告会 令和3年 3月 1日（日南町役場 交流ホール）

第3回 令和3年 3月 9日（オンライン開催予定）

【教育・文化】

- （中止）「にちなんふる里まつり」に連携する出前科学実験教室（継続）：

地域実践教育活動（エクステンション&アウトリーチ事業）

（技術部 三谷統括技術長 / 教育委員会）

【実績報告】

毎年10月に開催される「にちなんふる里まつり」において、鳥取大学の教職員と日南町の教育委員会が連携して科学実験教室の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

- 国際理解講座「外国の文化に触れよう」（継続）：

地域実践教育活動（エクステンション&アウトリーチ事業）

（国際交流センター准教授御館久里恵 / 日南町図書館）

【事業計画】

世界各国からきている鳥取大学の留学生と交流することにより、他国への関心を高め、海外を身近に感じることができる機会とする。民族、文化などを紹介した図書を通じてその国の文化に触れ、理解を深める。

内容は、国の紹介、国に伝わる民話絵本の読み聞かせ（現地の言葉と日本語）のほか、国を紹介するクイズや特徴的な遊びなどの参加者体験型のコンテンツも取り入れ、楽しみながら異国の文化を知る。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響をうけ、開催を3月20日に延期した。

●とっとり暮らし早期体験学習（継続）：鳥取大学地域創生推進プログラム

（地域価値創造研究教育機構教授 清水克彦 / 企画課）

【事業計画】

鳥取大学と連携協定を締結している日南町、大山町、琴浦町、南部町、智頭町、八頭町の6町をフィールドとして、実際に現地に赴き視察を実施し、大学入学後早い時期に地域の実情に接することにより、各町の特色ある自然や産業についての教養を身につけるとともに、地域を学ぶ動機付けを行うことを目標とした講義である。

日南町では、7月30日に町の概要について大学で講義を行い、8月2日には実際に学生が町を訪れ、にちなん中国山地林業アカデミーにおいて、林業の現状やアカデミーの取組みを学ぶとともに、ヒノキ林に入り実際に間伐を行い、林業の面白さや難しさの一端を体験した。学生の感想文をまとめ、関係者へ配布。

8月27日には、学生が得た気づきなどについての報告会を鳥取大学にて実施した。



●地方創生政策体験学習（継続）：鳥取大学地域創生推進プログラム

（工学部助教 長曾我部まどか / 企画課）

【実績報告】

8月31日～9月3日の4日間、日南町地内で体験学習を行った。

今年度は移住・定住政策事業を対象に、制度利用者と役場担当者へヒヤリングを行い、制度の特徴や移住者の求める条件について整理した。

体験学習の最終日には役場職員に対し学習した内容を発表した。

9月25日には模擬事業仕分けを行い、日南町の移住・定住政策に対する提案も行った。この講義の受講生は公務員志望者が多く、実際に公務員の現場を体験することで、住民との交流や役場職員と関わる良い機会になっているため、来年度も継続して実施したいと考えている。



●鳥取大学一日南町連携講座として「にちなん町民大学」を開催（継続）：その他連携事業

（鳥取大学教員 / 教育委員会）

【実績報告】

日南町生涯学習講座としてさまざまな分野の講師を招き、毎月1回「にちなん町民大学」を開催している。日南町に関するさまざまな調査・研究をされている鳥取大学より講師を招き、講演していただくことにより、町民が日南町の魅力や特徴・特性を知る学習の場としたい。

令和2年5月22日鳥取県において「日南町神戸集落のサクラソウ群落」が鳥取県指定天然記念物に指定された。そこで今年度は、鳥取大学農学部生命環境農学科の永松大教授にご講演いただき、天然記念物のもつ意味をはじめ、福栄地域に自生する希少な植物である「サクラソウ」の生態について学んだ。天然記念物は守りつつ活かしていくことが大切であり、神戸集落のサクラソウ群落の天然記念物指定に関しては「サクラソウを守る会」がそれを実践している点も高く評価されてのことだとう。日南町の魅力の再確認と町民の誇りにつながる機会となった。

令和2年7月15日(水)18時30分から日南町役場防災会議室で開催。27名参加。



（日南町神福地内で撮影されたサクラソウ）

【産業・環境】

●日南町福万来におけるゲンジボタル生息水域の評価（継続）：その他連携事業

（鳥取大学（日置研究室）とにちなんエコツーリズム推進協議会との共同研究）

【中間報告】

（1）生息場所について

産卵後の取り上げ調査では主に小原川本流を中心に 70 個体を捕獲したが、サッカーボール前後の大きさと容易に動かせる石の下で多くが捕獲された。一方、餌（川ニナ）の密度と有意な関係は認められなかった。また、大型の幼虫が多数含まれており、これらは前年に生まれたであろう幼虫と推測されることから、福万来では相当数が複数年で成虫になっていることが推測される。

（2）上陸場所について

上陸調査において 200 個体を確認し、大切な生息場所となっていることが分かった農業用水路（土水路）であるが、上陸場所としてホタルの幼虫が好む環境については今年取ったデータからは明らかにできなかった。来年度以降も継続的に調査し、ホタルが場所を選択して上陸しているのか、また、上陸場所としてどのような環境を好むのかを判明させていきたい。

（3）発光場所と産卵場所について

成虫の発光のピークは 6/24～6/30 であり、発光が多かった場所は下流側の農業用取水堰と秋葉さん宅上流のカーブから上流側で多くなっていた。成虫が集まる場所について環境的に重要な要素を現在解析中である。また、発光場所と産卵場所の関係などについて、今年度産卵場所の特定ができなかったため、来年度再チャレンジする。



●日通共生の森10周年記念事業（継続）：その他連携事業

（農学部 / 農林課・企画課）

【中間報告】

1. 主な動き

年月日	農学部人数	活動内容
令和元年7月1日	1	活動前作業内容打合せ
7月8日	3	活動前事前調査
7月13日	3	2019 日通共生の森夏活動(調査)
8月22日	6	図鑑作成:松ヶ峠フロラ、UAV
9月17日	4	図鑑作成:松ヶ峠フロラ、ファウナ調査
10月25日	3	図鑑作成:松ヶ峠フロラ、鳥類調査
11月9日	2	2019 日通共生の森秋活動(調査)、調査中間報告
12月16日	3	図鑑作成:松ヶ峠、鳥類調査、自動撮影カメラ設置
令和2年2月	1	図鑑作成:自動撮影カメラ回収
4月9日	2	図鑑作成:松ヶ峠フロラ
5月29日	5	図鑑作成:松ヶ峠フロラ
6月10日	4	図鑑作成:松ヶ峠フロラ、鳥類調査
7月8日	6	図鑑作成:松ヶ峠フロラ、自動撮影カメラ設置
8月31日	4	図鑑作成:松ヶ峠フロラ、自動撮影カメラ回収
～以降		データ整理、データベース作成
12月24日		完成・データパンフレット引渡し
合計	47	

平成21年度より日本通運(株)が日南町で実施している共生の森活動が令和元年度で10周年を迎えた。それに伴い、この10年間の成果を受けて、活動地内の生態系を調査することによりどのような生態系が守られているかを把握し、広く日南町内外周知するため「日通共生の森WEB生態系図鑑」を作製する。調査活動は日南町、鳥取大学が担当し、結果をもとに日本通運が自社のHPにWEB図鑑を作製する。鳥取大学共同研究契約を締結し事業実施。令和2年12月31日事業終了予定。

昨年度は7月から現地の植生、生態系調査を独自に実施。(1.参照)7月13日、11月9日には日本通運(株)の社員、家族と一緒に活動地で生態系調査を行った。また、11月9日の活動開会式の中で調査の中間報告及び完成イメージについて日本通運(株)、日南町にむけ日置教授、高木院生から説明をおこなった。

今年度は春の植生、生態系の調査を4月、5月に実施。11月実施予定だった共生の森秋の活動となった。12月24日にWEB図鑑のデータ、パンフレットが完成し、日南町に引き渡した。現在、日本通運にデータを引渡し、HPへの公開に向け検討をいただいている。



●（中止）木のピタゴラスイッチ（新規）：その他連携事業

（地域学部 准教授 武田信吾 / 教育委員会、農林課）

【事業計画】

森林教育の一環として、①日南町美術館への親しみやすさの増幅、②地元材を活用した創造の場の具現化、③年齢、職種を超えた交流による地域活性化、④ピタゴラスイッチ繋がり関係人口の増加を目的に実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

【3者協定に基づく連携事業】

●（実施中）中山間地域の課題解決に関する連携協定（新規）：その他連携事業

（鳥取大学／日南町／ソフトバンク）

本協定は、ICTの利活用をベースとし、中山間地域の課題解決を行い、SDGsの各項目を協働で推進することで、持続可能な中山間地域のモデルケースを創造し、暮らしやすいまちづくりの実現に資することを目的として令和2年8月21日に締結した。

今年度は4つのプロジェクトチームを設置し、課題解決のためにプロジェクトを推進する。



①小学生の居場所確保と学びに対する意識向上

【現状と課題】

- ・日南町の児童・生徒に体験不足やコミュニケーション力の不足が見られる。
- ・放課後の子どもの受け皿となる場を町（地域）として準備することが急務である。
- ・知的好奇心が学習意欲につながっておらず、「学び」に対する目的意識も乏しい

【解決案】

ICT 技術や大学の専門的な知見、学生等の様々な人とのかかわりを通して、子どもたちの豊かな学びや体験を実現していくことの方法について幅広く検討する。

【期待される効果】

- ・多様な人との関わりによるコミュニケーション力の向上
- ・放課後や土日にも、長期休業等、学校以外での子どもの活動の受け皿となる場が増える
- ・学びの深まり、学習意欲の高まりが見込める

【主な動き】

年月日	活動内容	備考
8月19日	担当者打ち合わせ	
9月8日	第2回担当者打ち合わせ及び協議	
11月17日	日南小学校第13回校内研究会	日南小学校教諭 計14名参加

11月18日 ～11月20日	小学校 Pepper 体験	介護用 Pepper
11月26日	家庭教育講演会 「家庭教育に期待するもの ～日南町の子どもたちの現状から～」 講師：地域学部 小林勝年教授 会場：日南町役場ホール、リモート	小学生の保護者へ向けた講習を実施 現地、リモートでの参加ともに40名程度
12月8日 ～12月11日	小学校 Pepper 体験(2)	教育用 Pepper (プログラミング等)
1月22日	Pepper 入学式	

【今後の動き】

日南小学校での教育用ペッパーを導入し、プログラミングやペッパーを通じて仲間と協働する楽しみを感じることや、自分の気持ちをペッパーで表現することで、児童同士のコミュニケーションツールとして利用し、子どものコミュニケーション力を向上させる。

放課後の時間を利用し児童の活動機会を増加させるための体制づくりを行う。

案：スマートコーチシステムを活用し、遠隔地から児童へコーチングができるものを利用し、児童がクリエイティブな活動ができるように支援する。

町民、保護者の協力を得て児童が安全で安心して活動できるような場の確保（文化センターの多目的室などを活用する）



②成長記録を町民と行政で共有しながら進める子育て支援（プロジェクト終了）

【現状と課題】

スマートフォンの普及に伴い、子育て世代においても非常に重要なツールとなっている。ICTを活用した新たな子育て支援策として、妊娠中から出産、子育てまで全てのライフステージに合わせ、切れ目のない子育てサポートを目指す。紙媒体による通知を削減することにより職員の業務負担軽減、忙しい子育て世代の現状にあったサポートも期待できる。

【期待する効果】

- ◆時代（現状）に即した子育て世代が利用しやすい環境の整備。
- ◆複雑な予防接種等の管理が簡単に可能。
- ◆夫婦間での情報共有。子育てへの関心促進。
- ◆通知等、紙媒体による見落としの軽減。
- ◆ICT活用による他サービスとの連携、拡張。
- ◆行政・職員の業務負担軽減（郵送・電話・経費削減）。

【主な動き】

ソフトバンクから成長記録を記録するシステムとして、成長ログシステムの提案をいただいた。

しかし母子健康手帳のサポートや子育て情報の配信、行政業務の効率化等総合的に検討し、本システムの導入には至らなかった。

成長記録を電子化するという案を生かし、令和3年度から他システム導入が具体化でき、アプリを活用した「成長記録を町民と行政で共有しながら進める子育て支援」を目指すことができた。

③日南町ショートタイムワーク

【現状と課題】

令和元年度に実施した日南町『雇用・就労アンケート』において、60代、70代の雇用の場を求める声は非常に多い状況。

また、高齢者だけでなく子育て世代のお母さんなど、フルタイムは困難でも、ショートタイムなら働ける方々を、働き手を求める企業と繋げる仕組みを町内企業と連携し進めていくことが今後重要となる。

全国、米子市と比較しても日野郡内の求人は高い状況。

【解決案】

ソフトバンクの『ショートタイムテレワーク』の仕組みを活用し、業務管理、業務委託、業務発注のシステムを構築できないか検討を行う。

【主な動き】

年月日	活動内容	備考
6月17日	担当者打ち合わせ	
6月25日	奈義町へ先進地視察	
7月3日	第2回打ち合わせ	奈義町視察の報告、アンケート計画
7月15日	第3回打ち合わせ	アンケート作成
10月29日	第4回打ち合わせ	アンケート実施の進捗不芳 ⇒想定した対象者が少数で再検討必要 事業者のニーズ把握のためアンケートを計画
11月6日	第5回打ち合わせ	アンケート(案)の最終確認
11月12日	アンケートの配布開始	
11月27日～	アンケート回収、集計	
12月18日	第6回打ち合わせ	今後の展開(今年度中と来年度)確認
2月15日 ～2月16日	事業先ヒアリング	6社にヒアリングを実施
3月4日	第7回打ち合わせ	

【今後の動き】

来年度は仕組み構築を検討していく。

④保育、介護分野におけるICT化

【現状と課題】

日南町だけでなく全国的に、保育や介護、医療の現場での時間外勤務の増加、業務の負担軽減が大きな課題となっている。また、女性が多い職場でもあることから、残業が増えることで労働力の確保が困難となる恐れがある。

【解決案、期待される効果】

にちなん保育園にソフトバンクの子会社である（株）hugmo（ハグモー）のhugnote（ハグノート）導入を導入し、園だよりや緊急連絡等の出来る一斉連絡や、スケジュール管理、個別連絡はアプリ上で出来るほか、こども情報の一元管理、登園管理を行うことで、保護者はリアルタイムに情報共有が可能となり、保育士は業務効率化がはかれ、その結果生まれた時間は、大切な子育てそのものに使うことが可能となる。これにより、連絡のペーパーレス化や連絡帳の手書きなどの負担軽減が出来るほか、一斉連絡では通知を保護者が確認したかを見ることが出来るので連絡漏れが防げるほか、欠席連絡もアプリ上で可能なため、職員のみならず保護者の負担軽減にも繋がる。

【今後の動き】

来年度4月からシステム導入し引き続き保育士の負担軽減、保護者の利便性向上を図っていく。

【令和2年度までの主な経緯】

【平成16年度】

- (1) H17. 2. 8 矢田日南町長、内田課長 鳥大訪問
- (2) 3. 23-24 岩崎理事外日南町訪問（情報交換会、にちなん環境林視察）

【平成17年度】

- (3) H17. 4. 21 本名農学部長、日置教授外日南町訪問、視察（県庁林政課同行）
- (4) H18. 2. 21 矢田日南町長、内田課長来学 学長、岩崎理事、林監事外訪問
- (5) 2. 28-3. 1 岩崎理事、林監事外 日南町訪問（意見交換会、町内小学校等視察、協定の調印式）

【平成18年度】

- (6) H18. 4. 20 第1回ワーキンググループ会議 ～H19. 3. 24 第4回WG会議
- (7) 7. 7 地域活性化教育研究センター開所式及び記念講演会（能勢学長講演）
- (8) H19. 3. 25 鳥取大学・日南町連携事業成果報告会（日南町役場交流ホールにて）

【平成19年度】

- (9) H19. 4. 1 鳥取大学社会貢献推進課における日南町職員の派遣研修（手嶋主事）
- (10) 4. 16 30年後プロジェクト有識者会議
- (11) 4. 20 第1回WG会議 ～H20. 3. 2 第3回WG会議
- (12) H20. 3. 2 連携事業成果報告会（日南町生涯学習まちづくりフォーラム共催）

【平成20年度】

- (13) H20. 4. 1 鳥取大学社会貢献室における日南町職員の派遣研修（高橋主任）
- (14) 4. 19 30年後プロジェクト有識者会議
- (15) 5. 8 第1回WG会議 ～H21. 2. 15 第3回WG会議
- (16) H21. 2. 15 連携事業成果報告会（日南町生涯学習まちづくりフォーラム共催）

【平成21年度】

- (17) H21. 4. 1 鳥取大学社会貢献室における日南町職員の派遣研修（荒金主事）
- (18) 6. 9 第1回WG会議 ～H22. 3. 12 第3回WG会議
- (19) 9. 9-11 明治大学「M-Navi プログラム」による日南町訪問
- (20) 9. 16 「日野郡フィールド実践による地域づくりセミナー」過疎プロジェクト報告会開催
- (21) H22. 1. 22 「大学連携によるまちづくり」能勢学長講演会／連携事業報告会
- (22) 2. 18-19 明治大学菊地ゼミによる日南町訪問・意見交換

【平成22年度】

- (23) H22. 4. 1 鳥取大学社会貢献室における日南町職員の派遣研修（荒金主事（2年目））
- (24) 4. 19 第1回WG会議 ～H23. 3. 12 第3回WG会議
- (25) 9. 9 日南町議会による鳥大視察、研修会
- (26) 11. 24 日南町議会・教育委員会合同研修会
- (27) H23. 2. 1 明大・鳥大合同セミナー「日南町地域活性化への提言」
- (28) 3. 12 「地球温暖化と日南町の挑戦」中村名誉教授講演、連携事業報告会

【平成23年度】

- (29) H23. 4. 1 鳥取大学社会貢献課における日南町職員の派遣研修（石倉主事）
- (30) 5. 6 鳥取大学連携講座「にちなん町民大学」～12. 2 計10回開催
- (31) 6. 15 第1回WG会議 ～H24. 3. 3 第3回WG会議
- (32) 10. 24 日南町議会による鳥大視察、研修会
- (33) 11. 20-22 明治大学菊地准教授ゼミ生による日南町訪問・意見交換
- (34) H24. 3. 3 連携事業成果報告会（同日、日南町環境フォーラム開催）

【平成 24 年度】

- (35) H24. 4. 1 鳥取大学社会貢献課における日南町職員の派遣研修（石倉主事（2年目））
- (36) 4. 28 鳥取大学連携講座「にちなん町民大学」～12.8 計10回開催
- (37) 6. 8 第1回WG会議 ～H25.3.2 第3回WG会議
- (38) 8. 20 インターンシップ受入（～8.31のうち10日間）
- (39) 10. 24 日南町議会による鳥大視察、研修会
- (40) 11. 16 にちなん「農家楽」セミナー開催
- (41) H25. 1. 25 日南町自治協議会・自治会長会合同研修（乾燥地研究センター見学）
- (42) 3. 2 連携事業成果報告会（日南町総合文化センターにて）

【平成 25 年度】

- (43) H25. 4. 1 鳥取大学社会貢献課における日南町職員の派遣研修（川上主事）
- (44) 5. 17 鳥取大学連携講座「にちなん町民大学」～翌26.3 計11回開催
- (45) 6. 11 第1回WG会議 ～H26.3.9 第3回WG会議
- (46) 9. 9 インターンシップ受入（～9.13 工学研究科 学院生3名）
～H25.11.11 報告会を開催（日南町役場にて）
- (47) 10. 2 日南町森林活用プロジェクト会議の立ち上げ
第1回日南町森林活用プロジェクト会議 ～H25.12.5 第2回会議
- (48) 11. 12 四町連携（日南、南部、大山、琴浦）合同企画
鳥取大学連携シンポジウムを開催（琴浦町にて）
- (49) 3. 9 連携事業成果報告会（日南町総合文化センターにて）

【平成 26 年度】

- (50) H26. 4. 1 鳥取大学社会貢献課における日南町職員の派遣研修（川上主事（2年目））
- (51) 5. 16 鳥取大学連携講座「にちなん町民大学」～翌27.3 計12回開催
- (52) 6. 1 鳥取大学知（地）の拠点整備事業シンポジウムを開催（増原町長出席）
- (53) 6. 10 第1回WG会議 ～H27.2.28 第3回WG会議
- (54) 7. 31 第1回日南町森林活用プロジェクト会議 ～H26.11.5 第2回会議
- (55) 9. 9 ハーブの利用に関する研究会が解散
- (56) 9. 29 オーダーメイド型インターンシップ開催（～10.3 工学研究科6名）
～H26.12.1 報告会を開催（日南町役場にて）
- (57) 10. 12 鳥取大学風紋祭に炊き込みご飯を出展（四町連携事業）
- (58) 2. 9 4タウンストーリーズ（地域の課題解決に取り組んだ学生たち）
研究展示会を開催（～2.26 鳥取大学広報センター）
- (59) 2. 24 日南小学校にて高齢者疑似体験学習を開催（医学部山本教授）
- (60) 2. 28 連携事業成果報告会（日南町総合文化センターにて）

【平成 27 年度】

- (61) H27. 4. 1 鳥取大学社会貢献課における日南町職員の派遣研修（古川主事）
- (62) 4. 17 鳥取大学連携講座 平成27年度「にちなん町民大学」開校～翌28.3 計13回開催
- (63) 5. 9 「地（知）的好奇心育成のための早期体験学習」にて、学生が日南町での体験活動（田植え）
- (64) 6. 2 第1回WG会議 ～H28.2.28 第3回WG会議
- (65) 7. 1 地域学部「地域学入門」にて、古川派遣職員が鳥大と日南町の連携について説明
- (66) 7. 15 とりりん・オッサンショウオ木製パネルの鳥大への贈呈式（鳥取大学広報センター）
- (67) 7. 15 「公共政策論I」にて、増原町長が『「創造的過疎」のまちづくり』と題して講演
- (68) 7. 30 放置財研究会が発足
- (69) 8. 20 子ども支援連絡会議を開催（計3回開催）
- (70) 9. 5 日南町まちづくり大会～まち（むら）づくり協議会10周年&鳥取大学×日南町連携協定10周年記念事業
～（日南町総合文化センターさつきホールにて）
- (71) 10. 10 鳥取大学風紋祭に炊き込みご飯を出展（5町連携事業）
- (72) 10. 25 にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室2015（9年目）
- (73) 12. 11 大宮で現地報告会を開催
（地域貢献支援事業「コミュニティ力向上に向けたワークショップスキームの開発」）
- (74) 2. 27 連携事業成果報告会（日南町総合文化センターにて）
- (75) 2. 29 WG会議が平成27年度鳥取大学長表彰「社会貢献賞」を受賞

【平成 28 年度】

- (76) H28. 4. 1 鳥取大学社会貢献課における日南町職員の派遣研修（佐伯主事）
- (77) 5. 14 「地（知）的好奇心育成のための早期体験学習」にて、学生が日南町での体験活動（田植え）
- (78) 7. 6 第 1 回WG会議 ～H29.3.5 第 3 回WG会議
- (79) 7. 20 鳥取大学公開講座 平成 28 年度「にちなん町民大学」開校～翌 29.3 計 3 回開催
- (80) 6. 29 地域学部「地域学入門」にて、佐伯派遣職員が鳥大と日南町の連携について説明
- (81) 8. 1 阿毘縁解脱時にて、前鳥取大学長の能勢隆之先生が「健康幸福寿命」について講演
- (82) 9. 12 第 3 回放置財研究会を開催（鳥取県庁にて）
- (83) 10. 23 にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室 2016（10 年目）
- (84) 11. 5 秋の図書館祭りに併せ「国際理解講座」を開催（日南町総合文化センターにて）
- (85) 11. 10 地域学部「地域就業論」にて、日南町古川主事が「公務員として地域で働くこと」について講演
- (86) 12. 12 阿毘縁お墓山にて、農学部学生が樹木銘板を設置
- (87) 12. 18 大宮で現地報告会を開催（大宮まちづくり協議会／地域学部福田教授、筒井准教授との連携）
- (88) H29. 3. 5 連携事業成果報告会（日南町総合文化センターにて）

【平成 29 年度】

- (89) H29. 4. 1 鳥取大学社会貢献推進課における日南町職員の派遣研修（佐伯主事（2 年目））
- (90) 5. 13 「とっとり暮らし早期体験学習」にて、学生が日南町での体験活動（田植え）
- (91) 5. 15 インターシップ受入（～5.19 農学部学生 1 名）
- (92) 7. 13 第 1 回WG会議～H29.3.3 第 3 回WG会議
- (93) 8. 5 日野川水系における水質調査報告会を開催（日南町総合文化センターにて）
- (94) 8. 9 鳥取大学の学生を招き「国際理解講座」を開催（日南町総合文化センターにて）
- (95) 8. 28 インターンシップ受入（～10.30 農学部学生 3 名）
- (96) 9. 15 地方創生政策体験学習を実施（9.15～17 までの 3 日間、日南町地内にて）
- (97) 10. 22 にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室 2017（11 年目）
- (98) 12. 9 地域学部学生と大宮まち協によるまちづくり塾「ぎばんで」を開催
（大宮まちづくり協議会／地域学部筒井准教授との連携）
- (99) H30. 1. 28 「ITS セミナー in 鳥取」にて、企画課出口室長、西田主幹が町の取組みを報告
（東京大学次世代モビリティセンター主催／鳥取大学共催）
- (100) 3. 3 連携事業成果報告会を開催（日南町総合文化センターにて）
- (101) 3. 23 大宮で現地報告会を開催（大宮まちづくり協議会／地域学部筒井准教授との連携）

【平成 30 年度】

- (102) H30. 4. 1 鳥取大学地域価値創造研究教育機構企画管理室における日南町職員の派遣研修（牧主事）
- (103) 5. 8 「とっとり暮らし早期体験学習」にて、学生が日南町での体験活動（にちなんめしふえす）
- (104) 7. 5 第 1 回WG会議～H30.3.2 第 2 回WG会議
- (105) 8. 10 鳥取大学の学生を招き「国際理解講座」を開催（日南町総合文化センターにて）
- (106) 8. 25 地方創生政策体験学習を実施（8.25～28 までの 4 日間、日南町地内にて）
- (107) 10. 28 にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室 2018（12 年目）
- (108) 12. 15 地域学部学生と大宮まち協によるまちづくり塾「ぎばんで」を開催
（大宮まちづくり協議会／地域学部筒井教授との連携）
- (109) 1. 10 日南町民大学で「日南町の多様な地質から読み解く地球の歴史」と題して講演
（農学部生命環境農学科菅森講師）
- (110) 3. 2 連携事業成果報告会を開催（日南町総合文化センターにて）

【令和元（平成31）年度】

- (111) H31. 4. 1 鳥取大学地域価値創造研究教育機構企画管理室における日南町職員の派遣研修（牧主事（2年目））
- (112) R 1. 5. 8 「とっとり暮らし早期体験学習」にて、学生が日南町での体験活動（にちなん中国山地林業アカデミー）
- (113) 7. 1 日通共生の森 10周年記念事業生態系調査（7/8, 13, 8/22, 9/17, 10/25）
- (114) 7. 16 第1回WG会議～R2. 2. 29 第3回WG会議
- (115) 8. 7 鳥取大学の学生を招き「国際理解講座」を開催（日南町総合文化センターにて）
- (116) 9. 3 地方創生政策体験学習を実施（9. 3～6までの4日間、日南町地内にて）
- (117) 10. 6 町制60周年記念式典のアトラクションコーナーにて、鳥取大学ジャズ&フュージョン研究会が演奏
- (118) 10. 20 にちなん日和2019にて、鳥取大学吹奏楽団ウインドアンサンブルが演奏
- (119) 10. 27 にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室2019（13年目）
- (120) R 2. 1. 10 地域学部学生と大宮まち協によるまちづくり塾「ぎばんで」を開催
（大宮まちづくり協議会／地域学部筒井教授との連携）
- (121) 2. 29 【中止】連携事業成果報告会を開催（日南町総合文化センターにて）
- (122) 3. 24 【中止】日南町民大学で「鳥取県指定天然記念物に指定される「日南町神福のサクラソウ群落」」の講演
（農学部生命環境農学科永松教授）

【令和2年度】

- (123) R 2. 4. 1 鳥取大学地域価値創造研究教育機構地域連携推進室における日南町職員の派遣研修（中嶋主事）
- (124) 4. 1 日南町福万来におけるゲンジボタル生息水域の調査（日南町福万来地内にて）
- (125) 4. 9 日通共生の森 10周年記念事業生態系調査（2年目）
- (126) 6. 22 第1回WG会議～R3. 3. 9 第3回WG会議
- (127) 7. 15 日南町民大学で「鳥取県指定天然記念物に指定された「日南町神福のサクラソウ群落」」について講演
（農学部生命環境農学科永松教授）
- (128) 8. 2 「とっとり暮らし早期体験学習」にて、学生が日南町で体験活動（にちなん中国山地林業アカデミー）
- (129) 8. 21 中山間地域における課題解決及びSDGs推進に関する連携協定
- (130) 9. 3 地方創生政策体験学習を実施（8. 31～9/3の4日間、日南町地内にて）
- (131) 10. 24 【中止】にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室2020（14年目）
- (132) R 3. 3. 1 連携事業成果報告会を開催
- (133) 3. 20 鳥取大学の学生を招き「国際理解講座」を開催 ※予定



—発行—

鳥取大学・日南町

ワーキンググループ会議

事務局：日南町役場 企画課